

# 'TORAY'

Innovation by Chemistry



## CSR レポート 2015

2014年4月1日~2015年3月31日

関西ティーンエイジ株式会社

## CONTENTS

経営理念とCSR ..... 2

トップ コミットメント ..... 4

### 会社概要

沿革 ..... 6

組織 ..... 6

業績推移 ..... 7

事業拠点 ..... 7

### 事業の概要

プラント事業 ..... 8

施設事業 ..... 10

保全事業 ..... 12

機器事業 ..... 14

### CSRガイドライン

#### 新しい価値の創造

事業を通じた社会的課題解決への貢献 ..... 16

#### ガバナンス

企業統治と経営の透明性 ..... 17

企業倫理と法令遵守 ..... 18

リスクマネジメント ..... 20

#### 社会

人権推進と人材育成 ..... 22

製品の安全と品質 ..... 25

サプライチェーンにおけるCSRの推進 ..... 26

コミュニケーション ..... 27

社会貢献活動 ..... 28

#### 環境

安全・防災・環境保全 ..... 30

第三者意見 ..... 35

報告対象範囲：関西ティーイーケイ(株)  
(本社、滋賀事業場、北陸事業所、愛媛事業所)

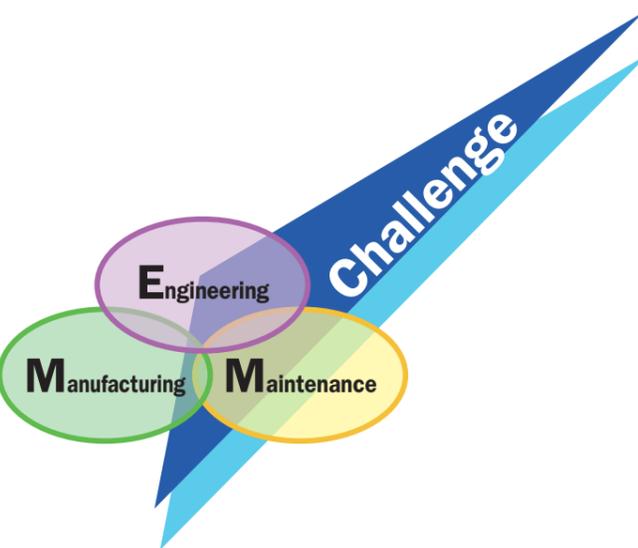
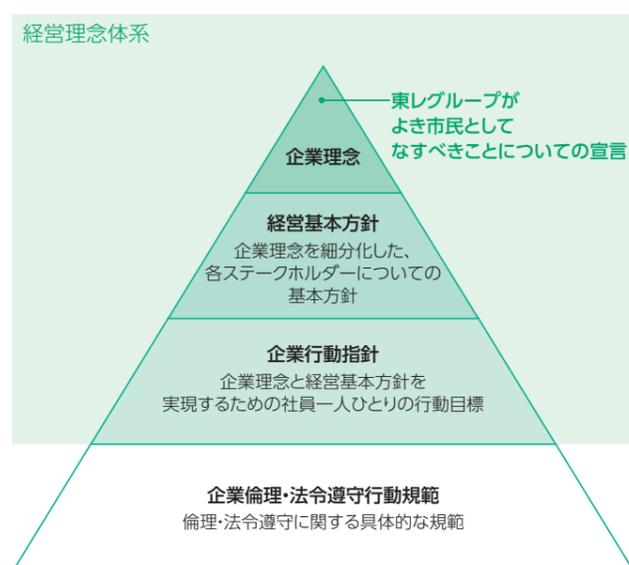
報告対象期間：2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)  
ただし、「環境」については2013年度も含まれます。

## 経営理念とCSR

東レグループでは、CSR\*とは社会的課題や変化に対応する力(Response + Ability)を培うことを通じ、社会および企業の持続的発展を目指して行動することと捉えています。また、「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」という企業理念のもと、創業以来、本業を通じて社会に貢献する志を掲げており、CSRの推進は経営理念(図1)の実現そのものと考えています。さらに、経営理念をサポートする「企業倫理・法令遵守行動規範」では、社員一人ひとりの具体的な行動の参考となる規範を示しています。

\*CSR: Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任)

図1 経営理念体系と行動規範の概念図



### [企業理念]

## わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します

### [経営基本方針]

お客様のために	新しい価値と高い品質の製品とサービスを
社員のために	働きがいと公正な機会を
株主のために	誠実で信頼に応える経営を
社会のために	社会の一員として責任を果たし 相互信頼と連携を

### [企業行動指針]

安全と環境	安全・防災・環境保全を最優先課題とし 社会と社員の安全と健康を守り環境保全を積極的に推進します
倫理と公正	高い倫理観と強い責任感をもって公正に行動し 経営の透明性を維持して社会の信頼と期待に応えます
お客様第一	お客様に新しい価値とソリューションを提供し お客様と共に持続的に発展します
革新と創造	企業活動全般にわたる継続的なイノベーションを図り ダイナミックな進化と発展を目指します
現場力強化	不断の相互研鑽と自助努力により 企業活動の基盤となる現場力を強化します
国際競争力	世界最高水準の品質・コスト等の競争力を追求し 世界市場での成長と拡大を目指します
世界的連携	グループ内の有機的な連携と外部との戦略的な提携により グローバルに発展します
人材重視	社員に働きがいのある職場環境を提供し 人と組織に活力が溢れる風土をつくります

### [企業倫理・法令遵守行動規範]

#### 1. 社会への貢献

New Value Creatorを目指す企業として、お客様に満足を与え、信頼される製品とサービスを提供します。

#### 2. 社会とのコミュニケーション

お客様、株主、地域社会の方々など当社を取り巻くさまざまな関係者とのコミュニケーションを行い、適切な企業情報を積極的かつ公正に開示します。

#### 3. よき企業市民としての行動

よき企業市民として、法令を遵守し、人権を尊重し、社会貢献活動に積極的に取り組みます。

#### 4. 地球環境保護に積極的な役割を果たすこと

地球環境保護に積極的な役割を果たすことを経営の重点課題として認識し、省エネルギー、排出・廃棄物の削減、リサイクルの推進など企業活動の全領域で環境との共生に努めます。

#### 5. 公正で信頼を第一とする企業活動

自由・公正・透明な市場競争に基づく適正な取引を行い、社会の厚い信頼を得られる企業活動を行います。

#### 6. 各国法令の遵守

グローバルな視野に立って経営の革新に努め、海外拠点においては各国の法令を遵守するとともに、高い倫理観をもって自らを律します。さらに、各国の文化や習慣を尊重した企業活動を展開し、地域の発展に貢献します。

#### 7. 意欲を高め、能力を発揮できる企業風土づくり

社員一人ひとりが意欲をもってその能力を発揮できるような企業環境づくりに努め、個人の人権、人格、個性を尊重しつつ、その創造性、専門性を最大限に高めます。

#### 8. 反社会勢力との関係遮断

常に社会的良識を備えた行動に努めるとともに、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会勢力とは一切関係を遮断し、全社一体の毅然とした対応を徹底します。

### [環境10原則]

#### 1. 環境保全の最優先

全ての事業活動において法規制・協定を遵守すると共に、生物多様性に配慮し、環境保全を最優先した製造、取り扱い、使用、販売、輸送、廃棄を行います。

#### 2. 地球の温暖化防止

省エネルギーを推進し、エネルギー原単位の低減および二酸化炭素排出量の削減に努めます。

#### 3. 環境汚染物質の排出ゼロ

有害化学物質および廃棄物の環境への排出ゼロを最終目標に据えて、継続的な削減に取り組みます。

#### 4. より安全な化学物質の採用

取り扱い化学物質の健康および環境への影響について、情報の収集、整備および提供を行うと共に、より安全な物質の採用に努めます。

#### 5. リサイクルの推進

製品および容器包装リサイクル技術を開発し、社会と協調して回収および再商品化を推進します。

#### 6. 環境管理レベルの向上

環境管理技術・技能を向上すると共に自主監査などを実施して、環境管理レベルの維持・向上に努めます。

#### 7. 環境改善技術・製品による社会貢献

新しい技術開発にチャレンジし、環境改善技術と環境負荷の少ない製品を通じて社会に貢献します。

#### 8. 海外事業における環境管理の向上

海外での事業活動においては現地の法規制を遵守することを第一とし、更に東レグループの自主管理基準とあわせた管理を行います。

#### 9. 環境に対する社員の意識向上

環境教育、社会活動および社内広報活動などを通じて、環境問題に対する社員の意識向上を図ります。

#### 10. 環境情報の社会との共有

環境保護に関する取り組み内容および成果は、環境報告書などを通じて地域社会、投資家、マスコミなど広く社会に公表し、相互理解を深めます。

## わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します

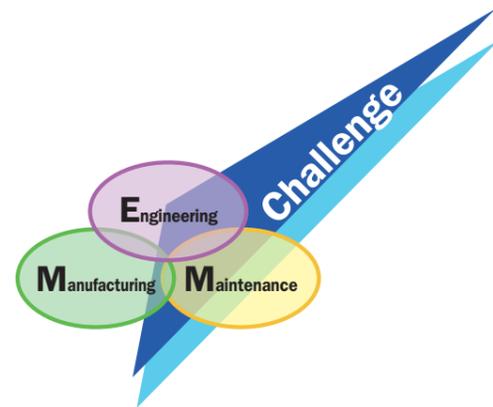


### 「素材」を作る「設備」「機器」をお客様へ

関西ティーイーケイ(株)は、東レ・東レエンジニアリンググループの一員であり、「エンジニアリング」と「機器製作」を業務としており、創立以来、41年間業容の拡大を図ってきました。

東レグループは「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」を企業理念に掲げて、「全ての製品の元となる素材には、社会を本質的に変える力がある」という強い信念のもと、「Innovation by Chemistry」をスローガンとして社会へ貢献しています。

当社も、その「素材」を作る「設備(プラント)」「機器」を東レグループでの経験をベースに、「保全」も含めて高度な技術・技能を提供する「トータル・エンジニアリング」を旗印にして、お客様の信頼を得るべく努力していきます。



### 企業理念とCSRの具体的推進について

東レグループの企業理念をトップとした経営理念体系(P.2図1参照)を踏襲し、CSRとは経営理念を実現することと考えています。

経営基本方針、企業行動指針、企業倫理・法令遵守行動規範は、その活動の基本となるものであり、全てがひとつに収斂して行くものです。関西ティーイーケイ(株)においても、この考え方に沿って、社員全員へ、CSRが追加された活動ではないことを意識付けしています。現在、2014年度をスタートとする3か年中期経営課題に取り組んでおり、その第一に「CSRを基本とした企業経営」を掲げています。

東レグループでは、従来から推進している地球環境へ貢献するGR(グリーンイノベーション)プロジェクトに加えて、医療現場の負担を軽減し、健康・長寿に貢献するLI(ライフイノベーション)プロジェクトを推進しています。関西ティーイーケイ(株)は、その中核となる炭素繊維や医薬のプラント建設から、「素材」の研究・技術開発段階をテストプラント段階からサポートして、お客様の手足となり、東レグループの中期経営課題の達成へ貢献していきます。

### 持続的発展を目指して

企業が社会と同様に持続的に発展するためには、お客様へ製品・技術・サービスを提供し、且つ社会の発展と環境の保全・調和に重要な役割を果たさなければなりません。

今回、いろいろな指標、環境関係データを、東レ(株)の関係会社という立場に甘えることなく、東レグループCSRレポートと同様に、CSRガイドラインの区分に従って、既に出来ているものと不十分なものを見直し、出来ていないものは将来計画を設定する作業を実施しました。

全てのステークホルダーにとって高い存在意義を持つ企業集団となるため、全社員、全職場がCSRの推進に努め、社会に貢献していくことを誓います。

本CSRレポートは、地域の皆様をはじめ社会の皆様にご理解いただくために、2014年度の成果を、アクションの背景にある方針や計画(目標)とともにまとめました。

忌憚のないご意見、ご要望を賜れば幸いです。

2015年4月

関西ティーイーケイ株式会社  
代表取締役社長

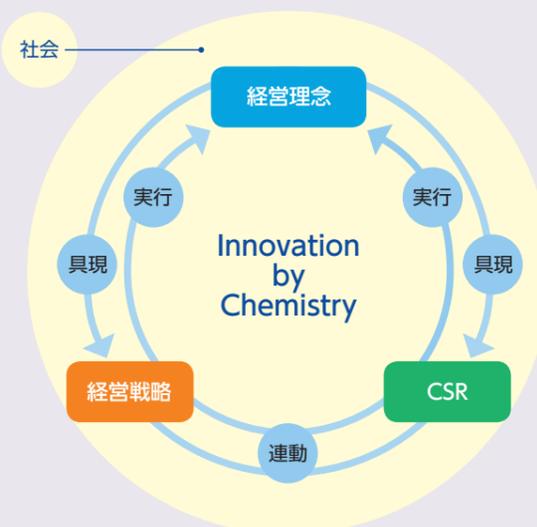
おお いた すすむ  
**太田 進**

### 関西ティーイーケイ(株)のCSR

関西ティーイーケイ(株)は、持続可能な社会の構築への貢献と持続的な発展の両立を目指している東レグループの企業として、「事業拡大とCSRは車の両輪」という考え方の下、CSRを推進しています。

CSRとは、社会的責任の国際規格ISO26000の定義によれば、組織の活動が社会および環境に及ぼす影響に対する責任(Responsibility)であり、加えて、東レグループでは、社会および企業が持続的発展をなすために、社員一人ひとりが社会的課題や変化に対応する(Response+Ability)を培い、行動することと捉えています。

図2 経営理念・経営戦略・CSRの一体的推進

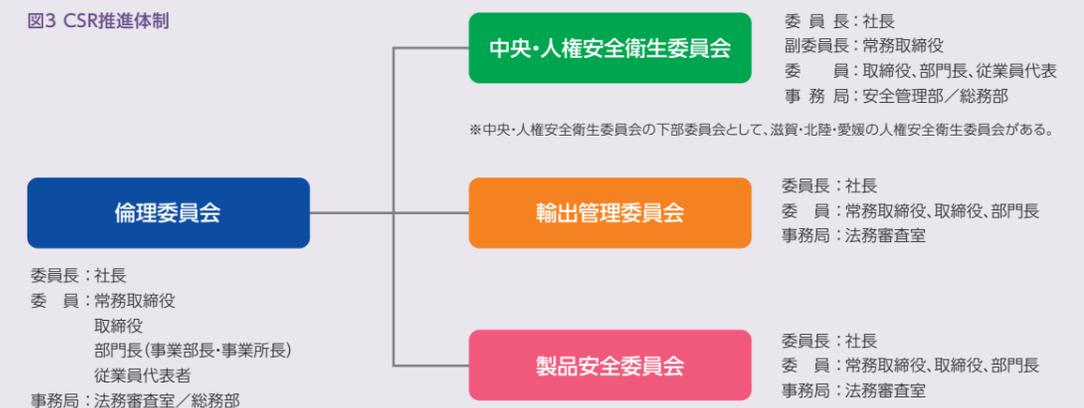


### 関西ティーイーケイ(株)のCSRの推進体制

関西ティーイーケイ(株)では、CSRに関する重要課題を審議するために、全社委員会のひとつとして「倫理委員会」を設置し

ています。倫理委員会は、3つの全社委員会を横断的に統括しており、組織全体でCSRを推進する体制を構築しています。

図3 CSR推進体制

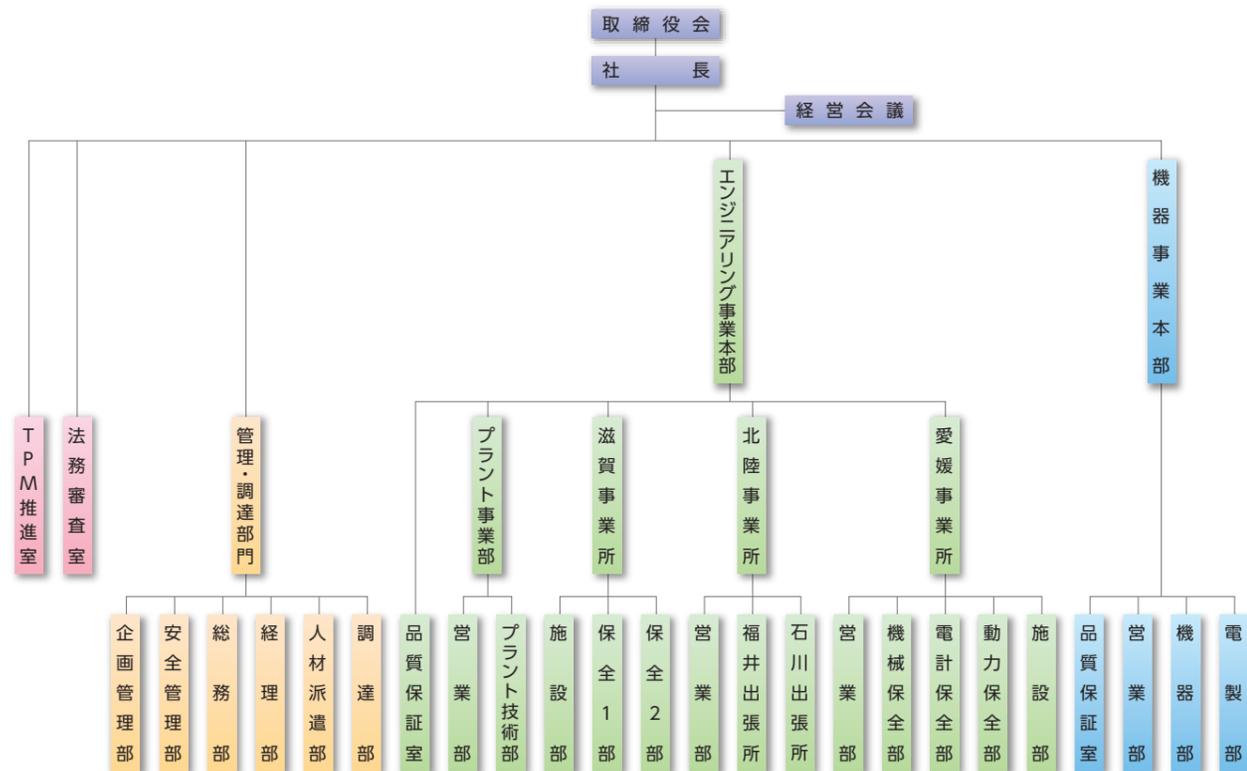


# 会社概要

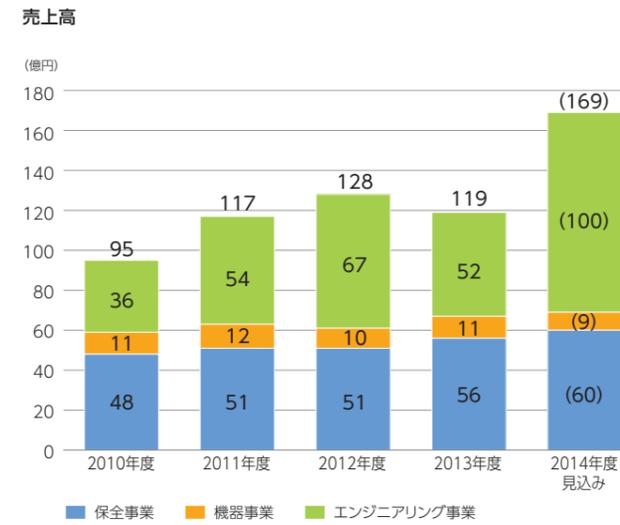
## 沿革

- 1973年 9月 東レエンジニアリング株式会社の住宅および一般建築事業の請負を目的として、東レエンジニアリング株式会社全額出資による**東洋工事株式会社**を設立(資本金25百万円)
- 1978年 4月 東レエンジニアリング株式会社から機械、電気、計測関係の技術・技能者を受入れ新事業開始
- 1983年 4月 社名を**東洋機工株式会社**と改称(資本金50百万円)
- 1985年 1月 東レエンジニアリング株式会社、東洋電機株式会社とともに制御盤の製作、販売会社として**三東電装株式会社**を設立  
名古屋事業所(1986年)、愛知事業所(1988年)発足
- 1994年 4月 東レエンジニアリング株式会社が名古屋市に設立した中部ティーイーケイ株式会社へ名古屋、愛知両事業所を分離移管
- 1995年 4月 三東電装株式会社を吸収合併、新社名を**関西ティーイーケイ株式会社**と改称(資本金80百万円)
- 1999年 7月 東レエンジニアリング株式会社北陸関係業務の移管により、北陸工事事務所(福井県)を発足
- 9月 東レ株式会社石川工場内に石川出張所発足
- 10月 東レ株式会社愛媛工場内に愛媛事業所発足
- 2002年 4月 エンジニアリング事業部内部組織の北陸工事事務所および石川出張所を統合し、北陸事業所を設立
- 2010年 4月 東レエンジニアリング株式会社より施設事業受入れ。機器事業部と電装事業部を統合し、機器事業部発足
- 2012年 3月 北陸事業所福井出張所の事務所を新築
- 2013年 12月 本社組織の内、管理部門と調達部門を統合、管理・調達部門を新設
- 2014年 1月 プラント事業部、滋賀事業所、北陸事業所および愛媛事業所を統括する組織として、エンジニアリング事業本部を新設  
機器事業部を機器事業本部に改称。併せて機器事業本部に品質保証室を新設  
当社の基本組織をTPM推進室、法務審査室、管理・調達部門、エンジニアリング事業本部、機器事業本部とする
- 10月 エンジニアリング事業本部に品質保証室を新設

## 組織



## 業績推移



## 事業拠点



## 2014年度の主な活動



2014年4月10日  
社長によるTPM<sup>※1</sup>活動現場指導

社員とのコミュニケーションを図るため、TPM全サークル対象に定期的に経営トップの指導会を実施

※1 TPM: Total Productive Management



2014年6月5日  
「関西コンパージング<sup>※2</sup>ものづくり研究会」に入会

社外とのコミュニケーションを図る一環として、「関西コンパージングものづくり研究会」に入会

※2 コンパージング: フィルムなどの薄い基材に、コーティング、ラミネーティングなどにより、より付加価値の高い二次製品を作り出すプロセスのこと



2014年6月~9月  
トップ主導によるCSR活動

外部コンサルタントを導入し、お客様との密着強化を図るための社内研修実施



2014年8月5日  
TPM全社活動報告会開催

冒頭の社長挨拶で、CSRを基本とした経営を推し進める旨の会社方針を滋賀本社で訓示

(北陸事業所、愛媛事業所はWeb会議で中継)



2014年9月5日  
創立41周年記念式典を挙げる

社長式辞で、法令違反、人権、安全、環境、製品安全事項など、CSRに関連する問題は、企業の存続を左右するということを十分認識するよう訓示

(創立記念日は9月6日(土))



2014年10月22日~24日  
「びわ湖環境ビジネスメッセ2014」に出展

初めての出展であるが、多くのお客様に当社ブースにお寄りいただき、環境改善、省エネ、医療など当社が取り組んでいる事業、製品の一部を紹介



2014年11月20日  
日本プラントメンテナンス協会関西地域「保全研究会」に加入

社外とのコミュニケーションを図る一環として加入し、各社が抱えている問題点について討議。関西地域の企業14社(製造業、メンテナンス会社、アミューズメントパーク運営会社など)が参加



2014年12月5日  
グリーンイノベーション事業の一例

東レグループのCFRP<sup>※3</sup>部品の設計、試作、少量生産拠点としての機能を拡充していくための東レ・カーボンマジック(株)第3工場増床工事を担当

※3 CFRP: 炭素繊維強化プラスチック

## プラント事業

関西ティーイーケイ(株)は、東レエンジニアリンググループの主力事業の一翼を担う、合成繊維、樹脂など東レグループの主力商品の製造設備や、医薬品、IT(情報技術)産業向けファインケミカルの製造設備等のプラント建設を行っています。

2014年度からスタートした中期経営課題の目標のもと、①ケミカル分野 ②水処理分野 ③IT関連分野 ④環境・エネルギー分野 を事業の柱として取り組んでいます。

東レグループおよび一般外部のステークホルダーに対し、高度な技術力による「企画、設計、工事、試運転、海外据付指導までを行う」エンジニアリングを展開し、国内外を問わず多くのお客様に支持をいただいています。

プラント事業においては次のことを共通の理念として事業活動を行っています。

- ①お客様のニーズや要望を確実に把握し、最適なプラントを提供する
- ②関連法令と社内規格基準書を遵守し、プロジェクトを完遂させる
- ③事業を通してお客様満足度を高め、事業拡大を図ることで社会への貢献を目指す

### Voice



取締役  
エンジニアリング事業本部副本部長  
プラント事業部長  
かさらは のぶゆき  
笠原 伸介

プラント事業部は、従来から得意分野としてきたケミカル、水処理はもちろんのこと、最近ではIT関連や環境エネルギー分野にも力を入れており、地球温暖化防止、環境負荷低減を目的としたプラント設備についても数多くの実績ができてきました。

太陽光発電設備では、強電技術者を中心にノウハウを蓄積し、最適な設備提案をご提示することで、お客様の満足度を勝ち取り、受注実績が増えています。

設計では、3DCADを活用し、設計品質の向上と、配管プレファブ率を上げ、施工面での効率化も図っています。また、当事業部は、独自採用の技術者と東レエンジニアリング(株)出身の経験豊かなプラントエンジニアが多数在籍しています。

東レエンジニアリング(株)で培った経験を活かして、お客様のニーズにタイムリーにお応えすることをモットーに、今後も事業拡大を進めていきます。

## 事業の分野

### (1)ケミカル分野

ケミカルプラントは、主に物理現象・化学反応により製品を製造するプラントです。関西ティーイーケイ(株)が手掛けたプラントでは、下表のように多岐に渡る製品が製造されています。いずれも関西ティーイーケイ(株)が長年培ってきた技術を駆使して、お客様のニーズにマッチしたプラントを造り上げています。

プラントの種類	製品の最終用途(例)
◆石油化学プラント	化学製品やその中間原料
◆炭素繊維プラント	航空機の機体(翼など)
◆トナープラント	コピー機のトナー
◆液晶原材料プラント	液晶テレビ・携帯電話の画面材料
◆界面活性剤プラント	洗剤原料など
◆生化学物質プラント	化粧品、食品添加物など
◆接着剤プラント	接着剤
◆その他ファインケミカルプラント	



カラーベース製造装置の反応槽



機能膜利用濃縮装置

### (2)水処理分野

機能膜を利用した水処理装置は、海水淡水化、灌漑水淡水化、河川水や工業用水の浄水化、有価物回収・分離・濃縮および冷却水、洗浄水再利用などの広範囲な技術展開をしています。関西ティーイーケイ(株)は、お客様のニーズに合わせて設計、製作、運転指導、アフターサービスプランを含めた提案を行い、高い評価をいただいています。機能膜利用は、省エネやCO<sub>2</sub>削減などにも効果があり、地球環境に大きく貢献しています。また、一般排水処理設備も、多くの実績を有しています。



一般排水処理設備



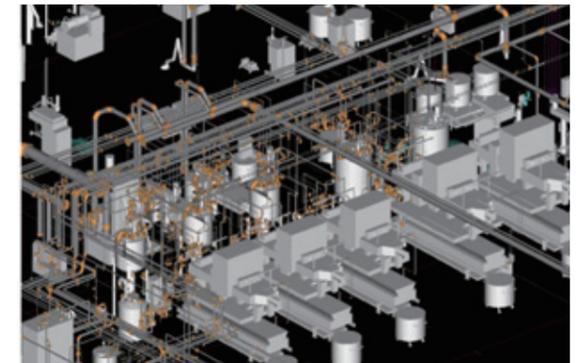
海水淡水化装置

### (3)IT(Information Technology)関連分野

スマートフォンや高画質プリンタなどのIT機器は、いまや身近な存在となっています。関西ティーイーケイ(株)の正確かつ緻密なエンジニアリングで、IT機器に関連した素材やトナーの製造設備をお客様に提供しています。IT関連製品を製造されているお客様の設備投資には、為替の影響も大きく、国内投資が可能なようにVA(Value Analysis)やVE(Value Engineering)を実施し、性能・品質を落とさずコストを抑えるエンジニアリング技術を提供しています。

右上の写真は、3DCADで作成した鳥瞰図です。この図面を用いて、施工前に、機器と配管の干渉チェック、計器や弁栓類の

取付位置確認、操作性の確認を行うことによって施工品質の向上に努めています。



### (4)環境・エネルギー分野

地球温暖化対策で注目されている再生可能エネルギー・新エネルギー(水素など)分野にも、関西ティーイーケイ(株)は積極的に進出しています。現在は、太陽光発電設備事業において、東レエンジニアリング(株)とのコラボレーションで、受注実績を積み上げ、最近では関西ティーイーケイ(株)単独での受注も増えてきました。

これからも、環境・エネルギー分野に進出されるお客様をエンジニアリング企業としてサポートしていきます。



屋上平置き



地上置き

施設事業

東レ(株)滋賀事業場・瀬田工場・愛媛工場・石川工場において、東レグループで培った安全最優先の思想を取り込んだ技術を活かし、定常設備投資案件および大型設備投資案件などに関して設備構想・予算取り段階から参画し、機械・電気・計測工事の見積り・設計・機材調達・施工管理・試運転業務まで一貫して遂行しています。

設計業務では3DCADを活用し、現場工事においては迅速な設備立ち上げに向けて、確実な工程管理を行い安全第一で施工を行います。

また、東レグループの国内だけでなく海外(アメリカ・中国・韓国・マレーシアなど)の各工場の新規設備設置・増設工事のテクニカルアドバイザーとしての支援業務など、グローバルな業務展開をしています。

東レグループ以外のお客様への事業展開

東レグループ以外のお客様に対しても、同様のエンジニアリング業務の提供やコンサルティングを実施しています。

反応、精製、重合などのケミカルプラント、中間工程の溶融製糸/製膜設備、最終工程の自動組立/製品処理ラインおよび各工程をつなぐマテリアルハンドリングなど、東レ製品の生産設備における長年の経験と実績および豊富な施工ノウハウを有しており、この強みを発揮いたします。また、製造工程へのエネルギー供給設備の経験から、省エネ・省コストも総合的に提案いたします。

東レ(株)の生産現場で鍛え上げた設計施工力により、安全安心の工事で作業性と保全性に優れた設備を提供しています。

施設事業の東レ(株)以外のお客様への事業展開

滋賀	東レ・オペロンテックス(株)、三洋化成工業(株)、その他近隣企業の設備工事
北陸	東レ・ダウコーニング(株)福井工場・小松工場の設備工事、北陸3県のケミカルプラントや医薬プラントの設備工事
愛媛	松山市近郊浄水施設の設備工事(松前町・伊予市・西予市)東レ・ファインケミカル(株)、住友重機械イオンテクノロジー(株)、日本エア・リキード(株)、その他近隣企業の設備工事

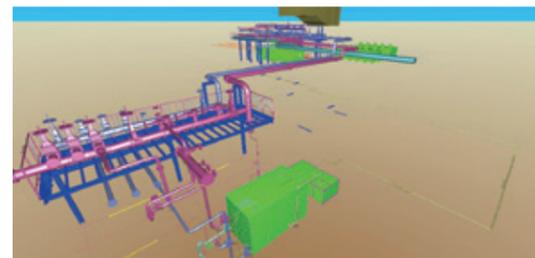
主に施工実績のある各種生産設備と東レ(株)の製品名称

滋賀事業場

繊維事業	ポリエステル長繊維不織布	アクスター <sup>®</sup>
	スエード調人工皮革	エクセーナ <sup>®</sup>
樹脂・ケミカル事業	ポリオレフィンフォーム	トーレパフ <sup>®</sup>
フィルム事業	ポリエステルフィルム	ルミラー <sup>®</sup>
複合材料事業	炭素繊維コンポジット	トレカ <sup>®</sup>
電子情報材料事業	液晶表示用カラーフィルター	トプティカル <sup>®</sup>
	感光性機能材料	レイブリッド <sup>®</sup>
	高性能セラミックス	トレセラム <sup>®</sup>
水処理・環境事業	家庭用浄水器	トレビーノ <sup>®</sup>



施工例 ①



3DCAD実施例 ①



Voice

理事 滋賀事業所長

ふじた ひろし  
藤田 寛

滋賀事業所は、東レグループの生産拠点である滋賀事業場、瀬田工場と滋賀県および近隣にある関係会社での設備工事、設備保全業務を担当しています。

関西ティーイーケイ(株)は、東レグループの『ゼロにこだわる生産活動(3Z活動:“ゼロ・アクシデント”、“ゼロ・トラブル”、“ゼロ・クレーム”)』の方針に従い、安全を最優先して建設工事、設備改善工事や設備保全業務を行い、お客様にご満足いただけるよう努めています。

東レグループは、繊維、樹脂・ケミカル、フィルム、炭素繊維複合材料、電子情報材料、医薬・医療、水処理・環境などの多岐にわたる事業分野でお客様に満足いただける製品を生産しており、他の事業所(愛媛、北陸)や、他の地域グループ会社と共に、お客様のご要望に応え、その幅広い事業を支える工場と設備を維持し、改善して業務に従事しています。

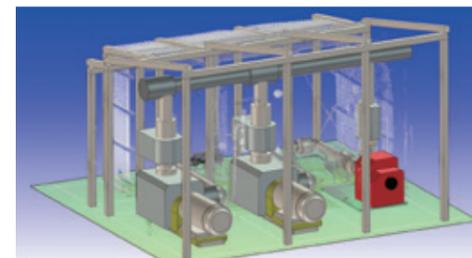
※ 他の地域グループ会社:中部ティーイーケイ(株)、関東ティーイーケイ(株)

石川工場

繊維事業	高吸放湿性ナイロン繊維	キューブ <sup>®</sup>
	ポリエステル繊維	シルック <sup>®</sup> テトロン <sup>®</sup>
複合材料事業	炭素繊維及び炭素繊維プリプレグ	トレカ <sup>®</sup>



施工例 ②



3DCAD実施例 ②



Voice

常務理事 北陸事業所長

しな ひろたか  
階 廣孝

北陸事業所は、北陸3県(福井・石川・富山)それぞれに拠点を置き、ケミカルプラントや医薬プラントを中心としたエンジニアリング事業を展開しています。

当事業所では施設事業を担当している石川出張所が、主に東レ(株)石川工場の設備工事を、安全を最優先として遂行しています。

CSR活動については、当社の活動のみならず東レ(株)石川工場の活動にも一部参画しています。CSR委員会や安全衛生委員会にオブザーバーとして出席し、安全・人権・地域貢献など、積極的に活動を推進しています。

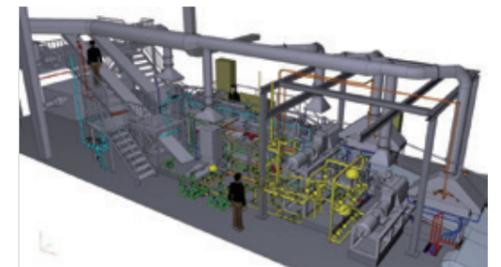
また、省エネのための設備改善や製品生産設備の改造など、東レ(株)石川工場のみならず北陸3県のお客様を通じて、微力ながらCO<sub>2</sub>削減のために今後も、より一層貢献して行く所存です。

愛媛工場

繊維事業	アクリル繊維	トレロン <sup>®</sup>
	ポリエステル繊維	テトロン <sup>®</sup>
樹脂・ケミカル事業	ネコインターフェロン	インターキャット <sup>®</sup>
複合材料事業	炭素繊維コンポジット	トレカ <sup>®</sup>
水処理・環境事業	逆浸透膜	ロメンブラ <sup>®</sup> トレフィル <sup>®</sup>



施工例 ③



3DCAD実施例 ③



Voice

取締役 愛媛事業所長

おおいし きよたか  
大西 清隆

愛媛事業所は、東レ(株)愛媛工場の保全業務、設備工事および東レグループの工場や近隣のお客様のケミカルプラントを中心とした機器製作・工事施工などのエンジニアリング事業を展開しています。

当事業所は、瀬戸内海に面しており、東レ(株)愛媛工場で製造されるRO膜を活用した海水淡水化設備に取り組んできました。

飲み水に、ご苦労される島々が多く、当事業所が設計、設置させて頂いた海水淡水化装置が稼働しており、皆様の暮らしのお役に立っています。

また、近年では、炭素繊維の需要が伸びていますが、国内では東レ(株)愛媛工場が生産の拠点です。用途は、各種ありますが、なかでも飛行機(B787他)の軽量化を実現し、CO<sub>2</sub>発生削減に寄与しています。松山~羽田間は日に3便、また、海外便にも多数の機体が就航しています。

搭乗の機会がありましたら、軽やかな空の旅を楽しまれるとともに、Made in Ehime を、思い浮かべていただけたら幸いです。

## 保全事業

関西ティーイーケイ(株)は、各種プラント・工場において、お客様のニーズに合った効果的な設備保全技術を提供しています。東レグループ各工場での設備保全業務を通じて培った豊富な技術・経験と知恵で設備保全のトータルソリューションを提供し、お客様の生産設備の生産性向上に貢献しています。

### 東レ(株)の4工場の保全業務

東レ(株)滋賀事業場、瀬田工場、愛媛工場、石川工場に密着し、各工場の最先端生産設備の保全を担当し、安定稼働・安定生産を支えています。

- 各事業場・工場において、
- ・ 生産設備・機器類の点検・整備・修理
  - ・ 法定点検と検査、それにとまなう整備・補修
  - ・ 測定装置の校正、性能維持
  - ・ 振動診断・油分析診断・モーター/インバータ診断
  - ・ 受配電設備、用役設備の維持管理などを実施しています。

24時間体制での突発トラブル対応はもとより、トラブルを未然に防ぐため、設備診断・保守点検強化による予知予防保全を推進し、生産設備の工程安定化を図り、生産部隊の信頼を得ています。

また、設備更新・保全改善の積極提案に努めています。

#### 省エネ取り組み例

関西ティーイーケイ(株)愛媛事業所では、東レ(株)愛媛工場の省エネ支援を日常業務として行っています。

愛媛工場は東レ国内12工場のなかでもエネルギー消費量が多い工場であり、国内外各工場のトップランナーとして省エネを進める必要があります。

2014年度に参画した主な省エネ案件は、以下のようなものがあります。

- ① AHU(エアハンドリングユニット)の外気取り入れ量の削減
- ② プロセス温水のカスケード熱回収による蒸気の削減
- ③ スチームトラップ診断によるムダな漏洩蒸気の削減
- ④ 冷凍機の冷却水温度低下によるコンプレッサ電力の削減など



設備・機器リストや図面を管理し法令・ISO等の基準に適正に対応します



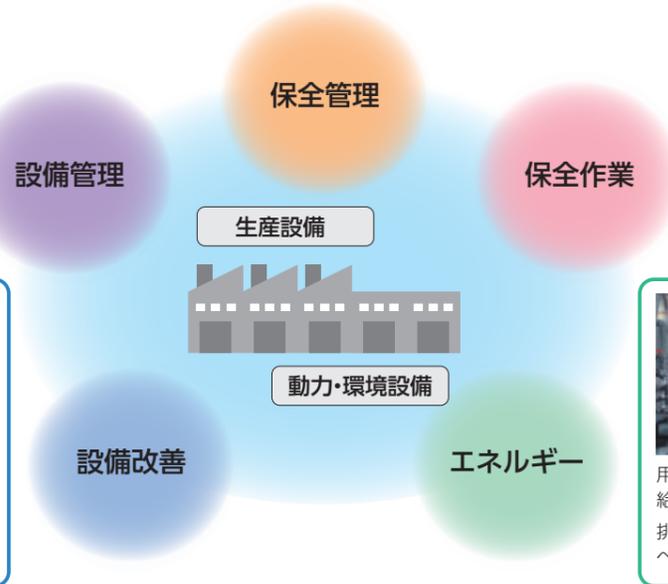
生産設備、動力・環境設備の計画運転への支援を行います



生産設備、動力・環境設備の機能維持のため点検・整備・修理・改善を行います



設備プロジェクト(設備改造等)の進捗支援を行います  
設備改善の基本・詳細設計を行います



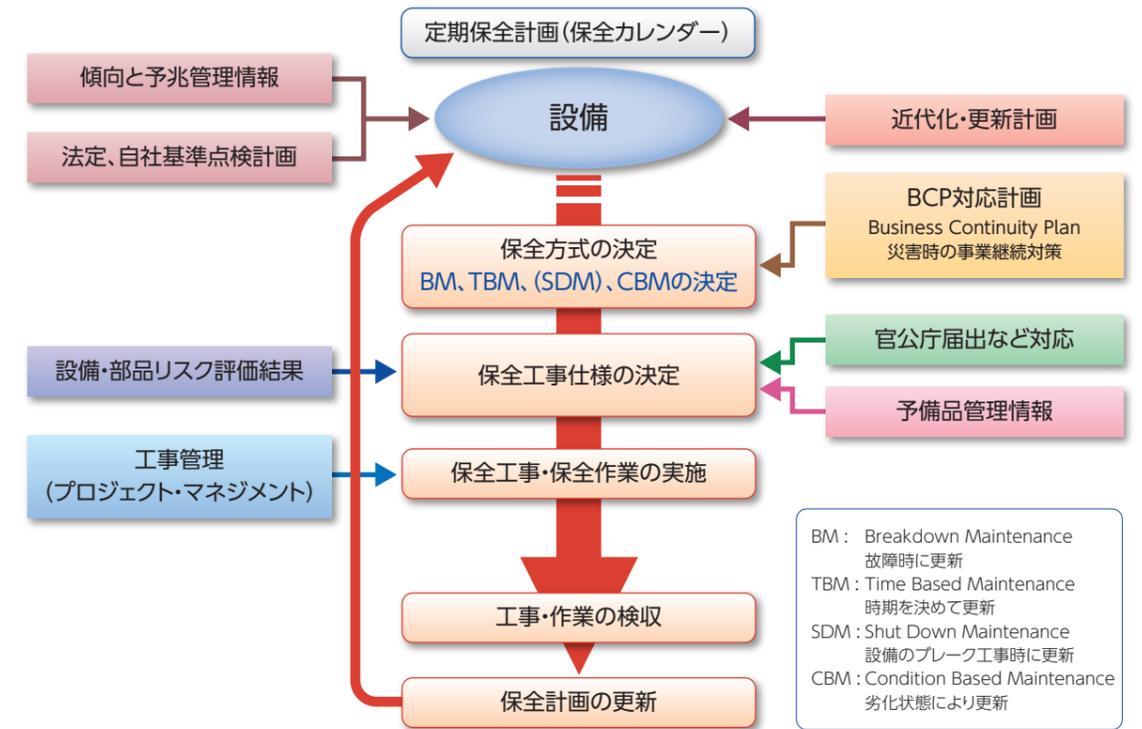
用役(電気、蒸気等)の安定供給への支援を行います  
排水・排ガス・廃液の適正処理への支援を行います

### そのほかのお客様の保全業務

東レ(株)の4工場の保全業務のノウハウを活用して、東レグループのみならず、関西ティーイーケイ(株)各拠点近隣の一般企業・事業所設備の保全業務も行っています。

滋賀	東レエンジニアリング(株)(滋賀・瀬田)の工場設備管理、ビル管理業務 近隣東レグループ工場の設備保全業務 (TMTマシナリー(株)、東レ・オペロンテックス(株)、東レペフ加工品(株)) 大阪、神戸、京都、滋賀の企業・事業所の設備保全業務、社員寮設備管理
北陸	東レ・ダウコーニング(株)福井工場・小松工場の保全工事 北陸3県の一般外部のお客様のケミカルプラントをメインとした保全工事
愛媛	松山市近郊浄水施設のメンテナンス 近隣企業の消防設備点検・整備

図4 設備保全のイメージ



BM: Breakdown Maintenance  
故障時に更新  
TBM: Time Based Maintenance  
時期を決めて更新  
SDM: Shut Down Maintenance  
設備のブレイク工事に更新  
CBM: Condition Based Maintenance  
劣化状態により更新

### Voice



取締役  
エンジニアリング事業本部副本部長

かどつじ あきら  
角辻 明

エンジニアリング事業本部で当社の事業の柱である保全事業を統括しています。主に東レグループの滋賀(大津)、瀬田、愛媛、石川の4工場の設備保全を担当し、『現場、現物、現実』の3現主義で『故障ゼロ』の実現に挑戦しています。

生産設備の機能を常に『全うな状態』に保つことが保全の役割ですが、故障とは『全うな状態』を逸脱して、生産の妨げになることはもちろん、作業者の不安全な状態や近隣に影響する大きな事故、エネルギーをはじめとする資源の大きなロスなど、社会的に大きな不利益をもたらします。私たちは、故障ゼロの実現により、このような不利益を撲滅して、社会に貢献することを使命と考え、日々の業務に精励し、保全の力量向上に努めています。

「安全・安心の生産活動を設備保全で支える」これが私たちのCSR活動の信条です。

機器事業

関西ティーイーケイ(株)は、東レ(株)の主力商品である高機能フィルム(液晶パネル、太陽電池パネル、包装用フィルムなど)を製造するための「口金」という重要機器や、東レエンジニアリング(株)が設計するLIB(リチウムイオン電池)用途工設備などに使用するコーター用「スリットダイ」の製作加工をはじめ、研究開発用実験装置、延伸機・スリッター・検反機などのコンバーティング\*装置、自動化装置などの産業機器や各種制御盤・操作盤を設計製造しています。

お客様の要望を実現させるため、関西ティーイーケイ(株)が保有する技術と東レ(株)・東レエンジニアリング(株)で培った技術を融合・進化させ、徹底した「ものづくり」機能の強化を進めています。種々の提案を通じてお客様の生産設備競争力強化の一翼を担っています。

また、各種産業機器の設計・製作、品質保証、据付工事、配線工事、試運転調整までを一貫施工しています。お客様のご要望に合わせて、当社プラント事業部との協働作業による生産設備・付帯設備の新設・改造にも対応しています。

\*コンバーティング：フィルムなどの薄い基材に、コーティング、ラミネーティングなどにより、より付加価値の高い二次製品を作り出すプロセスのこと

【事業の分野】

(1) 機器製作

東レ(株)の先端材料の製造装置や東レエンジニアリング(株)が販売する産業機械の設計・製造の経験と、東レグループで培ったプロセス技術を応用して、お客様の要望を高品質な「ものづくり」で具現化しています。また、3DCADによる構想設計段階での装置立体イメージや既設置からの保守性改善の検証結果を、お客様に提供しています。

(2) 口金製作

東レ(株)が世界に誇る高機能フィルムを製造するための重要機器である「口金」を製作加工しています。その製作加工技術を応用し、東レエンジニアリング(株)が国内競合他社に先駆けて販売した、LIB用途を始めとするスリットノズル方式の塗工設備に使用する「スリットダイ」の製作加工も手掛けています。

(3) 制御盤・操作盤製作

東レ(株)の工場設備用制御盤や東レエンジニアリング(株)の外販装置用制御盤で培った技術・ノウハウを活かし、各種制御盤(コンバーティング装置、液晶製造装置、水処理プラント、繊維機械、工作機械など)の設計・製作・品質保証を一貫して実施しています。また、PLCやタッチパネルなどのプログラム作成から現地試運転、既設の制御盤の改造工事、PLCリニューアルなどにも対応します。さらに、事業拡大の方向性として、太陽光発電関連盤などの環境・エネルギー分野への進出、検査装置など小規模機器製作案件への取り組みを始めています。

主要製品の分類



Voice



取締役 機器事業本部長  
よろず しゅんいち  
萬 俊一

機器事業本部では、機械装置や制御盤をはじめとする「ものづくり」を、構想設計から組立、試運転調整まで提供しています。東レ(株)の先端材料用研究開発装置から生産設備まで対応していく中で磨いた「ものづくり」の力を、お客様の最新製品対応や近代化更新、工程改善、自動化、省人化などへ展開しています。近年はライフイノベーションやグリーンイノベーションといった分野での展開に力を注いでいます。

スリッター

液晶、半導体向け検査装置

制御盤(製品例)

スリットダイ

縦延伸機

フィルム製造ライン

各種大型・精密加工用保有設備 各種大型精密加工に対応しています。

横中線り盤(2011年9月導入)

5面加工機(2013年11月導入)

## 新しい価値の創造

関西ティーイーケイ(株)は、技術革新に挑戦し、地球環境、医療・健康といった成長分野において、最先端の技術を生み出すことで社会に貢献します。

### 事業を通じた社会的課題解決への貢献

関西ティーイーケイ(株)は、地球温暖化、資源枯渇をはじめとする地球規模の環境問題や、保健・医療に関する社会的課題にグローバルな視点からソリューションを提供します。

東レグループおよび外部のステークホルダーに対し、豊富な経験から培われた高い技術力によるエンジニアリング事業、長年の経験に培われた設備保全事業および設計から部品加工・組立まで一貫して行えるものづくりの機器事業の3事業を融合した新たなエンジニアリング技術を提供することです。

「エンジニアリング」事業は、プラント事業を中心に滋賀・北陸・愛媛に拠点を配し、設備の基本計画・設計から試運転・調整まで柔軟な発想と技術力で提案型ビジネスを展開しています。

設備保全「メンテナンス」事業は、東レ(株)の滋賀・石川・愛媛の各工場の生産設備を全うな状態に保つことを主要命題とし、ここで培った技術・技能を一般外部のお客様へも提供しています。

機器「マニュファクチャリング」事業は、お客様のいかなる仕様にも力強く応える技術体制で、機・電一体のものづくり機能を強化し、お客様の生産設備の競争力強化の一翼を担っています。

絶え間のない技術進歩の中で、高度化・多様化するお客様のニーズにいち早くお応えするため、関西ティーイーケイ(株)は、技術力と提案力のある「人材」により、「安全・防災・環境保全」「企業倫理・法令遵守」をはじめとしたCSRの推進を経営の最優先課題として、社会へ貢献する経営理念を具現化し、持続可能な企業集団として発展していきたいと考えています。

## 社会的課題の解決

**東レの  
グリーン  
イノベーション**

地球環境、資源・エネルギー、水資源などの課題解決に貢献する事業

**東レの  
ライフ  
イノベーション**

医療の質を向上、医療現場の負担軽減、健康・長寿に貢献する事業

## マネジメント

関西ティーイーケイ(株)は、中期経営課題において、成長分野における事業拡大として「グリーンイノベーション(GR)事業拡大」と「ライフイノベーション(LI)事業拡大」を策定し、社長を先頭として強力に推進しています。

### グリーンイノベーション事業

東レ(株)では、地球温暖化防止、環境負荷低減を目的に、省エネルギー、新エネルギー、バイオマス由来、水処理、空気浄化、環境低負荷、リサイクル、プロセス革新をキーワードに、最先端技術にて各種素材や製品を作っています。

関西ティーイーケイ(株)も東レグループの一員として、中期経営課題の柱である「グリーンイノベーション(GR)事業」に積極的に取り組んでいます。

省エネルギーの分野である自動車・航空機軽量化のための炭素繊維複合材料の事業拡大では、東レ(株)の炭素繊維とその複合材料であるCFRP\*関連製品を製造する設備や装置を設計・製作・施工しています。

水処理事業の拡大では、東レ(株)の膜処理技術を利用した海水淡水化設備やケミカル工場向けの排水処理設備を、同じく東レ(株)の膜処理技術を利用して、バイオマス由来であるセルロース糖化プラントなどを設計・製作・施工しています。

また、新エネルギーの分野では、太陽光発電装置(1メガ未満)の設置も得意分野で受注実績を積み上げており、より高性能で高品質な製品・施工技術をお客様にお届けできるよう「イノベーション」に取り組んでいます。

\*CFRP:炭素繊維強化プラスチック

### ライフイノベーション事業

関西ティーイーケイ(株)は、東レ(株)が進める「ライフイノベーション(LI)事業」拡大プロジェクトに参画し、医薬事業・医療器材事業・バイオツール事業の拡大に取り組んでいます。具体的には、LI事業の研究開発へのエンジニアリング支援や、人工透析機器の自動組立装置や組立助力装置などを設計・製作しています。研究開発から製造装置製作まで高性能で高品質な製品をお客様にお届けできるよう「イノベーション」に取り組んでいます。

また、東レ(株)における医薬品製造工場建設で培った東レエンジニアリング(株)のプラント建設知見を伝承し、北陸、西日本を中心とする医薬品メーカー様のプラント建設工事へも力を注いでいます。

## ガバナンス(Governance)

関西ティーイーケイ(株)は、社会から信頼され期待される企業であるために、公正で効率的なガバナンス体制を整備し、誠実な企業姿勢を追求し続けるとともに、経営トップ主導のもと、全社を挙げてさまざまな活動を実施し社員一人ひとりの企業倫理・法令遵守の意識高揚を図っています。また、リスクをコントロールしつつ成長機会を確実に捉えていきます。

### 企業統治と経営の透明性

関西ティーイーケイ(株)は、企業が果たすべき社会的な責任の一環として、経営システムや制度を常に見直し、内部統制の強化、適時適切な情報開示に努めています。

#### 東レグループ CSR ガイドライン

1. 経営の透明性を強化し、ステークホルダーの意見を経営に反映させつつ、説明責任を果たします。
2. 会社法に基づく内部統制システム基本方針に基づき、モニタリングを実行します。
3. 東レグループ全体でCSRマネジメントシステムを整備し、CSR教育の拡大などを通じてCSR活動を活性化します。

## マネジメント

東レグループのコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方として、「経営基本方針」に「誠実で信頼に応える経営」を行うことを明記し、さらに「企業行動指針」に「高い倫理観と強い責任感をもって公正に行動し経営の透明性を維持して社会の信頼と期待に応える」ことを定めており、関西ティーイーケイ(株)は、これを実現するための経営体制を整えています。

### 【経営体制】

関西ティーイーケイ(株)の取締役会は取締役7名で構成しています。なお、より幅広い視点から外部の意見を経営に反映させることを目的として、出資者である東洋電機(株)より非常勤取締役として1名を選任しています。

また、関西ティーイーケイ(株)は公開会社でない株式会社であり、監査役は1名(非常勤、親会社の東レエンジニアリング(株))で、会社法の規定により、監査の範囲を会計に限定しています。

効率的なガバナンスのため、意思決定の規程として「トップ・マネジメント決定権限規程」を定め、取締役会、社長、本部・部門長などに留保される権限事項を規定しているほか、重要経営テーマごとに設けた全社委員会により経営執行を補完しています。

### 【業務の適切性と透明性の確保】

関西ティーイーケイ(株)は、業務を適切に進めるため「内部統制システムに関する基本方針」に基づき、法令・定款への適合、効率的な職務執行、情報の保存・管理、損失の危険の管理などに関する体制を整備しています。

### 【従業員代表との意見交換】

関西ティーイーケイ(株)は、「従業員代表制」を採用しており、年2回、全社職場代表協議会を開催し、社長、本部・部門長と各部門の職場代表が参加して、経営情報などの開示を行うとともに職場代表との意見交換を継続して実施しています。労使間の問題解決にあたっては個別に労使協議を行うこととしています。

## CSRの推進とCSR教育の充実

### 【東レグループ全体でのCSR推進体制】

東レグループは、グループ全体でのCSRの推進に取り組む体制を構築しています。

関西ティーイーケイ(株)では、法令などの遵守と企業倫理の徹底は経営の原点であるとの認識のもと、東レエンジニアリング(株)の全社委員会である「倫理委員会」、「CSR・法令遵守委員会」に社長が委員として参加するほか、独自で全社委員会の一つとして「倫理委員会」を設置し、その下部委員会として「中央・人権安全衛生委員会」、「輸出管理委員会」および「製品安全委員会」を設けています。(P.5図3参照)

### 【CSRに関する社内教育】

東レグループとして、さまざまな教育機会を通じてグループ全体でのCSRの浸透を進めており、関西ティーイーケイ(株)もCSR教育を積極的に実施しています。



**Voice**

非常勤取締役  
東洋電機株式会社 代表取締役社長

まつお しょうこう  
**松尾 昇光 氏**

2013年6月開催の定時株主総会において関西ティーイーケイ(株)の非常勤取締役に選任いただきました。私は以下の心構えでその任に臨んでいます。

- ① 会社が社会的存在であり継続的かつ適正な利益の創出をもって、事業の健全な存続と成長をめざす
- ② 法令を遵守し公正で自由な事業活動に邁進する
- ③ 会社で働く方々の個性と自主性を重視した働き甲斐のある職場づくりをめざす
- ④ 広く社会との融和を図り、企業情報を公正かつ適切に公開する
- ⑤ 環境に配慮した事業革新に挑み、環境保全に努める

関西ティーイーケイ(株)が今まで以上に必要不可欠な社会的存在であり続けるように貢献していきたいと考えています。

## 企業倫理と法令遵守

関西ティーイーケイ(株)は、社会からの信頼を獲得すべく、すべての役員と社員が常に公正さと高い倫理観、責任感を持ち、法令遵守の意識に基づいた行動を徹底しています。

### 東レグループ CSR ガイドライン

1. 東レグループ全体で重大な法令・通達違反の件数ゼロを達成します。
2. 各国・地域の事情に合わせたコンプライアンス活動を推進します。
3. 企業倫理・法令遵守に関する啓発・教育活動を強化します。

## マネジメント

東レグループは、企業経営に不可欠な企業倫理・法令遵守に、経営トップ自らが明確な姿勢を示し、その主導のもと、グループ全社を挙げて取り組んでいます。

### 【企業倫理・法令遵守推進体制】(P.5図3参照)

関西ティーイーケイ(株)は、全社委員会として社長を委員長とする「倫理委員会」を設置し、別に定める倫理規程\*の内容・疑

義の審議および全社危機管理を統括する体制とし、労使一体となって取り組みを推進しています。

\* 倫理規程: 当社が健全かつ社会的に責任のある企業活動を遂行するために、当社のすべての役員・理事および社員全員が遵守すべき倫理基準について定めたもの。

## 企業倫理・法令遵守を尊重する企業風土の醸成

東レグループは、企業倫理・法令遵守に関する各種教育活動・啓発活動等を定期的実施し、社員一人ひとりに至るまで企業倫理・法令遵守の徹底を図っています。

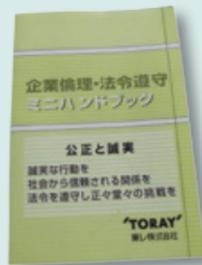
### 【「企業倫理・法令遵守行動規範」とハンドブック】

「企業倫理・法令遵守行動規範」(P.3参照)は、国の内外を問わずあらゆる企業活動において、東レグループのすべての役員・社員が遵守すべき行動基準です。違反行為は、各社の賞罰委員会への諮問を経て厳正に処分され、また万一このような事態が発生した場合には、徹底的な原因究明を行い、再発防止策を実行します。

関西ティーイーケイ(株)では、この行動規範と詳細な留意事項などをまとめた東レグループの「企業倫理・法令遵守ハンドブック」および東レエンジニアリンググループの「企業倫理の遵守のために」をすべての役員・社員(嘱託、パート、派遣を含む)に配付し、周知徹底を図っています。

### 企業倫理・法令遵守ハンドブック

2010年4月改訂



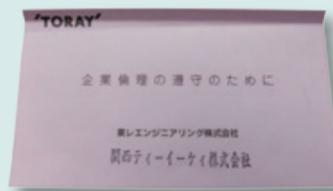
経営理念における行動指針の中に「倫理と公正」を謳い、「高い倫理観と強い責任感をもって公正に行動し経営の透明性を維持して社会の信頼と期待に応える」との決意のもと、東レは「企業倫理・法令遵守行動規範(8原則)」を定めています。私たち一人一人は、これを遵守し、最善の努力を払って日々行動していきます。

- ①社会への貢献
- ②社会とのコミュニケーション
- ③良き企業市民としての行動
- ④地球環境保護に積極的な役割を果たすこと
- ⑤公正で信頼を第一とする企業活動
- ⑥各国法令の遵守
- ⑦意欲を高め、能力を発揮できる企業風土づくり
- ⑧反社会勢力との関係遮断

### 企業倫理の遵守のために

2007年12月改訂

1. 法令および社内諸規則等に違反しない。
2. 公私の区別を明確にし、正当な会社資産の運用を行い、個人の利益追求は行わない。
3. 常に健全な営業姿勢、態度を明確にする。
4. 公正かつ合理的な基準で取引先を選定し、自主責任経営を尊重する。
5. 業務を通じて知り得た情報の漏洩、不正な利用は、絶対に行わない。
6. 知的財産権の確保・維持をはかる。
7. 製造物責任や労働安全衛生を意識し、顧客、職場の仲間および自らに対する安全性の確保を最優先にする。
8. 環境に関する法令を遵守し、環境保護に留意した健全な事業運営をはかる。
9. 基本的人権を尊重し、あらゆる差別、ハラスメントを排除する。
10. 地域社会との融和に努め、政治・行政との健全かつ正常な関係を維持する。
11. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を遮断する。
12. 公正かつ自由な競争の促進を意識し、不正な取引は行わず、関与もしない。
13. 個人情報の有用性に配慮するとともに、個人の権利・利益の保護に努める。



### 【企業倫理・法令遵守教育の取り組み】

2012年度から、東レエンジニアリンググループとしての取り組みのなかで、関西ティーイーケイ(株)の全社員(嘱託、パート、派遣を含む)を対象に「企業倫理・法令遵守eラーニング」を実施し、2014年度は著作権法をテーマに取り上げ、事例学習を通じて改めて日々の行動において遵守すべき事項を学びました。

さらに、東レ(株)にて発信している独占禁止法、インサイダー取引規制、労働法、海外贈賄規制など、業務に密接に関連する日本および海外の重要な法律情報により、法令遵守の意識づけを行っています。

### 【内部通報制度の整備と運用】

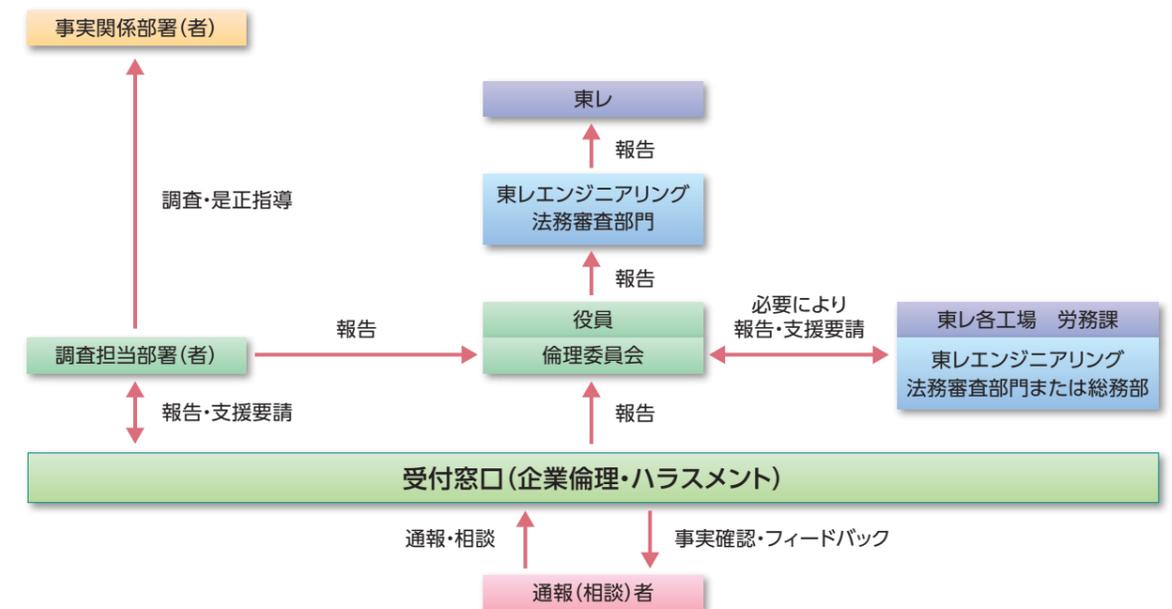
企業倫理・法令遵守に反する行為は、まず上司に相談することとしており、自浄機能を重視しています。それが難しい場合の通報・相談ルート(図5参照)として、各部門ならびに職場代表に通報・相談窓口を設置しているほか、企業倫理DBを構築し、さらに各事業場(所)に投書箱を設置しています(下の写真)。

これらの運用にあたっては、受付窓口担当者に対し通報・相談受付時の対応指針を徹底し、通報・相談者の秘密厳守など適切な対応を行っています。また、通報・相談した社員に対する不利益な取り扱いの



投書箱設置例

図5 企業倫理・法令遵守の通報・相談ルート



## リスクマネジメント

関西ティーイーケイ(株)は、情報セキュリティを含む全社リスクの管理体制を強化しています。また、不測の事態が発生した際にも迅速な対応と的確な情報開示が可能なシステムを構築しています。

### 東レグループ CSR ガイドライン

1. グローバルな事業展開を進めるなかで、グループ全体で全社リスクマネジメント活動を強化し、リスクを確実に低減させます。
2. 大規模地震、新型インフルエンザに対するBCPを整備し、適切に運用します。
3. 情報セキュリティ対策を徹底し、インシデント件数を減少させます。

## マネジメント

東レグループは、リスクマネジメントを企業経営の根幹として捉え、3年を1サイクルとする全社リスクマネジメントを運用し、経営活動に潜在するリスクの特定と、そのリスクの低減およびその発生の未然防止に努めています。

関西ティーイーケイ(株)においても「危機管理規程」(2008年1月制定)を定め、重大な危機発生時の拡大防止と、早期復旧のための全社危機即応体制を整備し運用しています。

## リスクマネジメントの体制と取り組み状況

### 【リスクマネジメントの体制】

東レグループのリスクマネジメント活動は、経営への影響が考えられるリスクを全社的な視点で評価し対策を実行する全社リスクマネジメントを導入し、優先対応リスクの特定とリスク低減活動をPDCAサイクルで運営しています。

関西ティーイーケイ(株)の、平常時におけるリスク管理はラインでの実施を基本とし、倫理委員会がこれを統括する体制としています。倫理委員会は、平常時のリスク管理状況について、必要な指導を行うとともに、必要により全社的な施策ならびに教育・研修等について企画・立案し、倫理委員会に諮って推進します。各部門は、部門長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、部門の平常時のリスク管理を行います。部門に潜在するリスクについて、計画的にリスクの低減、未然防止、早期発見ならびに危機発生時の対応訓練などに努めます。また、倫理委員会の方針・指示に従ってリスク管理を実施し、必要な場合、倫理委員会に提案・報告します。

### 【サプライチェーンにおけるリスク対策】

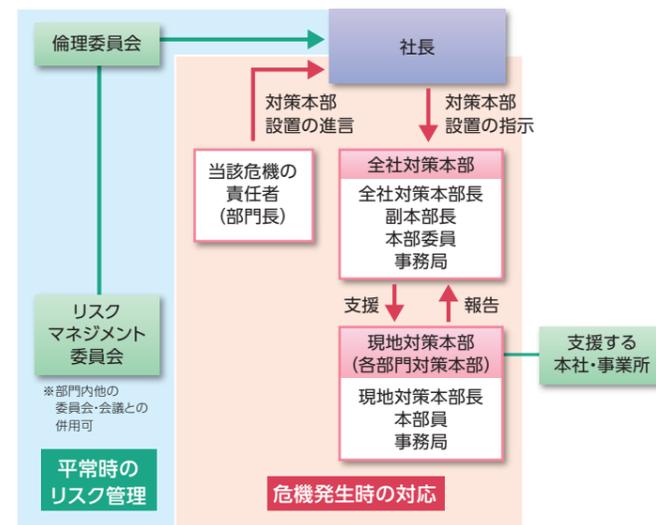
東レグループでは生産するすべての製品について「紛争鉱物※1」の使用状況を確認し、データを一元管理しています。関西ティーイーケイ(株)は、東レ(株)の調査依頼に協力し、お客様からの調査依頼に対し、回答の迅速化と効率化に取り組んでいます。

※1: 金、スズ、タンタル、タングステンの4鉱物。紛争鉱物を使用する製造者に対して内容を公開・報告義務を課すことにより、コンゴ民主共和国の武装集団への資金源を絶つことを目的としています。

### 【クライシスマネジメントの体制】

関西ティーイーケイ(株)では、危機管理規程で、重大な危機が発生した場合の全社対応の基本原則を明確に定めており、危機発生時にはその運用を徹底しています。また適宜、同規程の見直しを行い、社会環境の変化により発現する新たなリスクに備えています。

図6 全社危機即応体制



## 安全保障貿易の管理

関西ティーイーケイ(株)は、安全保障貿易管理への取り組みとして、「国際社会の平和および安全の維持」を目的とした輸出管理を適切に実施するため、あらゆる製品、機器・資材、サンプルの輸出、技術の外国への提供などを対象として該非判定を実施しています。特に炭素繊維およびその複合材料、半導体用コーティング剤、水処理膜など、輸出の際に経済産業大臣の許可を必要とするリスト規制品目については、厳格な管理を行っています。

社長が委員長を務める輸出管理委員会を定期的に開催し安全保障貿易管理強化に務めるとともに、毎年親会社の東レエンジニアリング(株)法務審査部門の監査を受け、管理レベルの維持向上を図り我が国経済の健全な発展に寄与するよう努めています。

## 事業継続計画(BCP)の取り組み

関西ティーイーケイ(株)では、従来から大規模地震を重要リスクのひとつとして位置づけ、全社員に連絡・避難方法、緊急時対応などポイントを記載した「激甚災害時の初期行動(カード)」(図7)を配布し、常時携帯を義務づけてきました。

東レエンジニアリンググループとして、大規模地震発生時の対応要領を策定し、本社機能重要業務の事業継続計画を含めた「大規模地震発生時の事業継続計画」を策定しました。その一環として本社に防災備蓄品を常備しました。なお、安否確認システムについては、2014年11月に導入を完了し、定期的な訓練を実施しています(図8)。



防災備蓄品

図8 安否確認システムのイメージ

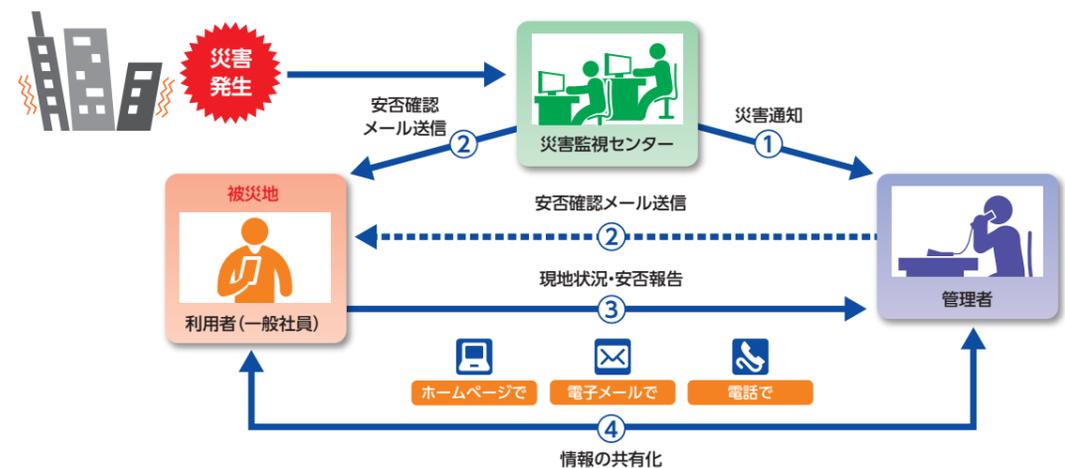
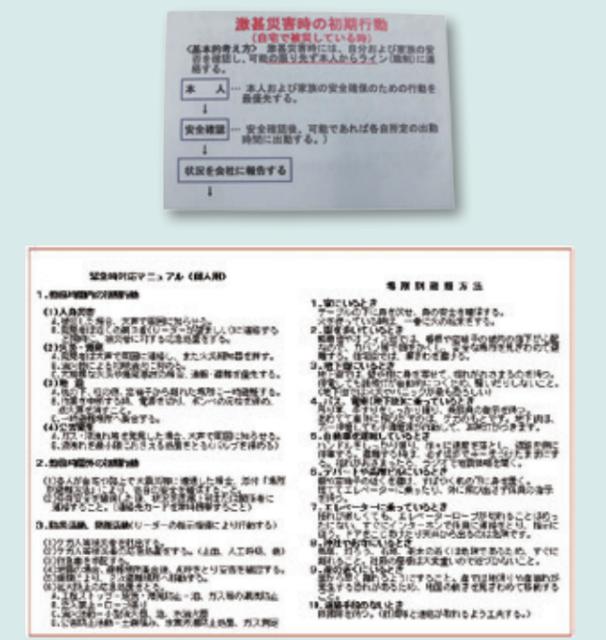


図7 激甚災害時の初期行動(カード)



**Voice**  
安全管理部長  
すぎやま かずみ  
杉山 一美

安全管理部は、経営基本方針に則り企業倫理・法令遵守とともに「安全衛生(含む交通)・環境意識の徹底」を最優先課題として取り組んでおり、協力会社と一体で安全・安心・快適な職場づくりを目指しています。安全・衛生・環境・防災・交通意識の徹底による完全無災害の継続のため、ゼロアクシデント活動を全員参加で推進しています。防災面では阪神・淡路大震災、東日本大震災を踏まえて、昨年から安否確認システムを導入し、地震など災害発生時には社員全員の安全を確認しています。環境面では環境負荷低減を図るため、廃棄物の排出削減・使用エネルギーの削減、環境事故防止の徹底を図っています。

## 社会 (Social)

関西ティーイーケイ(株)は、人権・雇用などあらゆる面で、多様性を尊重するとともに、ワークライフバランスの実現にも積極的に取り組み、「人を基本とする」経営を実践しています。調達においては、お取引先と協働して、CSRの取り組みを推進しています。ステークホルダーの皆様とコミュニケーションを積極的に図り、伺った声を活動に活かすことで皆様の信頼に応えてまいります。

### 人権推進と人財育成

関西ティーイーケイ(株)は、人財<sup>\*1</sup>の確保と育成、雇用の多様化に取り組むとともに、「社員の雇用を守ること」に努め、かつ人権を尊重し、常に職場環境の改善に努めています。

<sup>\*1</sup>：人が財産との主旨から当社では「人財」と表記しています

#### 東レグループ CSR ガイドライン

1. 東レグループ全体で人種、性別、学歴、国籍、宗教、身体的特徴などによるあらゆる差別の禁止を徹底するなど、人権を尊重し、実力による公平な登用を行います。
2. 活力にあふれ、誇りとやりがいのある職場風土を実現します。
3. 社員の育成機会を積極的に提供し、グローバルに活躍できる人財の確保と育成を推進します。

## マネジメント

### 【人権推進体制】

関西ティーイーケイ(株)では、「倫理委員会」のもと、「中央・人権安全衛生委員会」および各事業場(所)に「人権安全衛生委員会」を設けています。事業場(所)の委員会は毎月開催し、労使一体となって人権意識の啓発・向上に取り組んでいます。2014年度は、雇用の多様化が進んでいるなかで、今一度、人権尊重の原点に立ち戻り、人権を一人ひとりが自分の問題と捉えて他者の尊厳を尊重し、風通しがよく活力のある職場づくりを進めて行くことを活動基本方針として人権推進活動に取り組みました。

### 【人財育成の基本理念】

東レグループは、「企業の盛衰は人が制し、人こそが企業の未来を拓く」という基本的考え方のもと、人材をもっとも大切な経営資源と捉えています。関西ティーイーケイ(株)も、「人財の確保と育成」を最重要の経営課題のひとつとして取り組んでいます。すべての社員が働きがいを感じ、チャレンジ精神の旺盛な

明るく活力にあふれる企業風土を構築するため、社会の変化に応じて各種施策を実行しています。

### 人権推進への取り組み

東レグループは、「人権の尊重」は欠くことのできない企業運営の基本であると考えています。「企業倫理・法令遵守行動規範」にも人権尊重を謳うなど人権意識の啓発・向上に努めるとともに、人種、信条、肌の色、性、宗教、国籍、言語、身体的特徴、財産、出身地などに基づくあらゆる差別的な取り扱いを、募集・採用活動から配置・処遇・教育・退職に至るまで一切禁止しています。2014年度からは、性自認および性的指向による差別禁止の取り組みも開始しています。

また、国連人権宣言やILO条約などの国際ルールを尊重し、いかなる場合においても強制労働や児童労働を禁止するとともに、各国・地域の法令遵守を徹底しています。

### 【人権研修の実施】

関西ティーイーケイ(株)では、人権に対する正しい理解と意識向上を促すため、東レ(株)と同調し、毎年人権啓発キャンペーンを実施しています。2015年度のキャンペーンは、活動方針として

「思いやろう相手の気持ち 尊重しよう相手の立場」  
～ コミュニケーションを深め 笑顔と思いやりのある職場をつくらう ～

を掲げ、さらに、CSRにおける人権尊重の世界的関心の高まりについても各職場で理解を深めました。



また、各事業場(所)においては、毎月開催の人権安全衛生委員会および職場会などを利用した啓発活動を行うとともに、社員一人ひとりの人権意識高揚に向けて、東レ(株)の事業場・工場が実施する、実務担当者・管理者研修にも積極的に参加しています。

2014年度は例年実施される東レ(株)人権キャンペーンに参加し、全社へ横展開しています。さらに滋賀県や大津市、東レ(株)が開催する各種人権セミナーに出席、全社へPRしています。2015年度は、新たな試みとして東レ(株)人権推進課長の講演を計画しています。

### 【サプライチェーンにおける人権尊重】

関西ティーイーケイ(株)はサプライチェーンにも人権尊重を求め、そのことを「CSR調達アンケート」\*に盛り込んでいます。サプライチェーンに対してはアンケートや直接訪問を実施して状況を確認し、人権の面でも社会的責任を果たせるバリューチェーンの構築に努めています。

#### ※CSR調達アンケート

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| (1) CSR推進体制     | (5) ステークホルダーとの対話  |
| (2) 倫理とコンプライアンス | (6) 製品安全・品質保証     |
| (3) 安全・防災・環境保全  | (7) 人権・労働         |
| (4) リスクマネジメント   | (8) 情報セキュリティ・知財管理 |

### 新しい価値を創造する人財の確保と育成

関西ティーイーケイ(株)は、東レグループの企業行動指針に掲げる「人材重視」に基づき、企業の持続的発展のため、長期的視点に立って安定的かつ継続的に人財の採用を行っています。TPM活動の「人財育成部会」において、実情に即した全社的な人財の育成策を立案し、実行に移しています。

東レグループは、以下の3点を目標に人材育成を進めています。

- ・「公正で高い倫理観と責任感を持って行動できる社会人」の育成
- ・「高度な専門知識・技術、独創性を持って課題解決できるプロ人材」の育成
- ・「先見性、リーダーシップ、バランス感覚を持って行動できるリーダー」の育成

これらを実現するため、東レグループは、上記目標ごとに各種研修を体系的・合理的に整備し、あらゆる階層・分野の社員に対して、マネジメント力の強化、営業力・生産技術力や専門能力の向上、グローバル化対応力の強化などを目的としたさまざまな研修を実施しています。

関西ティーイーケイ(株)では、東レグループの各種研修に積極的に参加するとともに、実情に即して独自に、戦略的思考力・対人能力の向上を狙った「管理職研修」、「リーダー研修」などの階層別研修、営業力強化や設計力強化などの分野別研修を実施しています。さらに、TPM活動を通じて、個人別の育成計画を策定し、実行に移しています。

### ダイバーシティ推進への取り組み

東レグループは、多様な人々がそれぞれの能力を十分に発

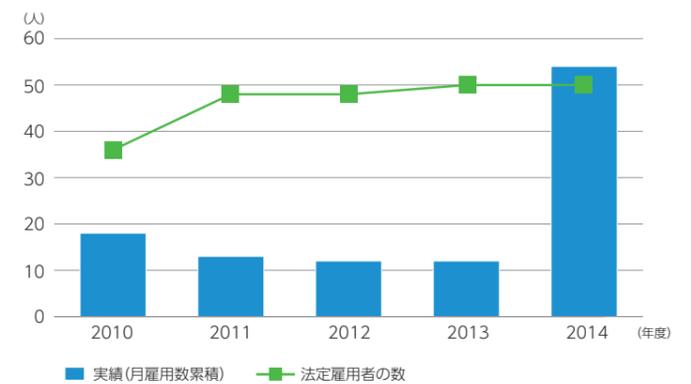
揮し、いきいきと働くことのできる職場の構築に向けてダイバーシティの推進に取り組んでいます。

### 【障がい者雇用】

東レグループでは、障がい者雇用を企業が果たすべき社会的責任のひとつとして捉えており、身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者を採用・雇用しています。関西ティーイーケイ(株)は、真摯に仕事に向き合う障がい者とともに働くことで、社員全体のモチベーションを上げ、さらに職場の活性化を図って、障がい者の強みを活かした仕事の切り出しによって、新たなビジネスモデルを創出したり、障がい者に対応したプロセスの見直しや、職場全体の改革につながると考えています。

関西ティーイーケイ(株)は2013年4月に改正された法定雇用率2.0%を達成しています。今後も障がい者が働きやすい職場環境のハード面・ソフト面を含めた整備に積極的に取り組んでいきます。

#### 障がい者雇用



### 【再雇用制度】

技術・技能の維持・継承、後継者育成の観点から、60歳を超える高齢者の活用を図るため、当社では1987年に再雇用制度を導入、世間に先駆けて「希望者全員を65歳まで再雇用」する取り組みを行っています。

#### 再雇用者数



## 社員が働きやすい企業風土づくり

### 【ワークライフバランスの実現に向けた取り組み】

関西ティーイーケイ(株)は、男女ともに多様なライフスタイルを選択できるよう、ワークライフバランスの実現に向けた制度の充実を図ってきました。特に、育児や介護、母性保護に関連した制度は法令で定められている以上の内容を設けており、各々の状況に合わせて利用しやすいように整備しています。

育児休職・介護休職に対する施策として 特別休暇・子の看護休暇・介護休暇に関する制度拡充、育児・介護など短時間勤務制度の短縮単位の見直しに関する制度改定を実施しました。さらに、ワークライフバランスを職場イノベーションの取り組みとして位置づけ、各職場での話し込みを通じた働き方に関する意識改革、全社一斉早帰りデーの実施(1日/月の設定)に取り組みました。時間外労働の削減や年休取得の促進については、継続的な取り組みにより、働きやすい就業環境づくりに貢献しています。

特に夏季ワークバランスについては、7月～9月に運動期間を設け、全社一斉早帰りデー：1日/月、リフレッシュデー：2日以上/週、年休・特別休暇取得・連続休暇の推進策として 本運動期間中に 5日連続休暇(定休日・特定休日含む)、5日間の年休・特別休暇の取得に取り組んでいます。

### 【女性が働きやすい企業風土づくり】

関西ティーイーケイ(株)では、1994年から育児休職制度を導入するなど、出産・育児の支援制度(図9参照)を整備し、職場環境の整備を進めてきました。現在では、出産する社員のほぼ全員が、産前・産後休暇、育児休職の制度を活用し、職場に復帰しています。復職後も育児短時間勤務制度を利用でき、多様な働き方を実現しています。

**Voice**

**三ヶ月 いつ子**

2014年8月より育児休職をとらせていただき、現在子育て奮闘中です。

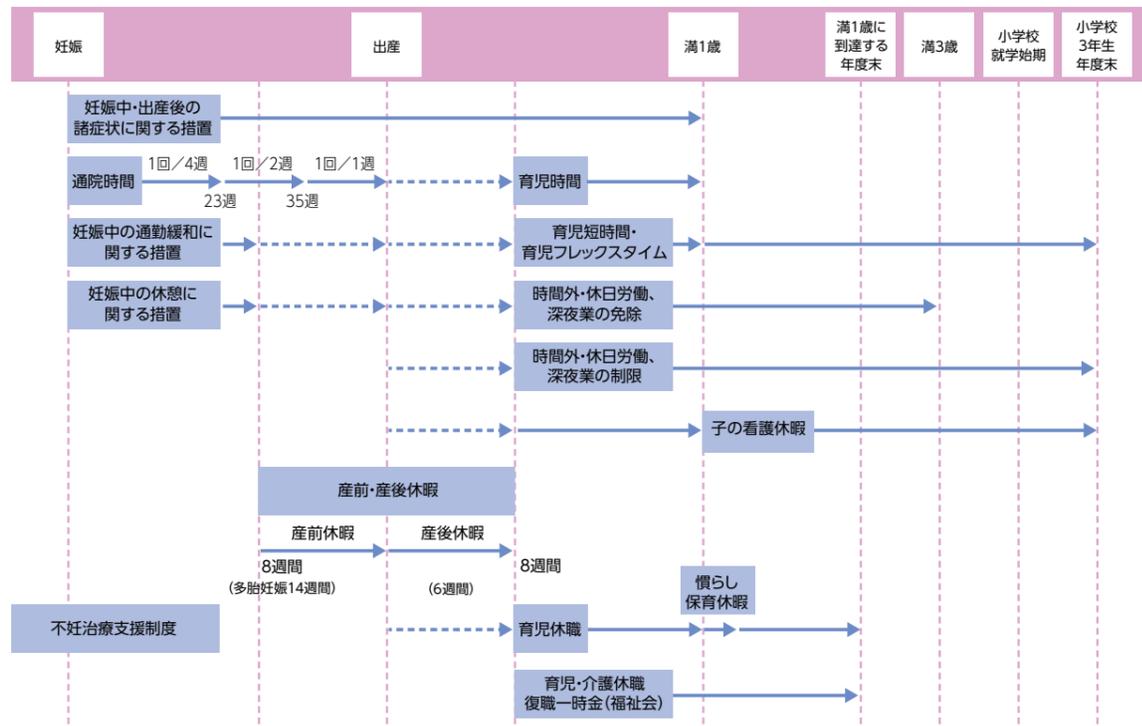
当社では、職場の女性のほとんどが育児休職を取っているため、働く女性にとってそれは普通のことだと思ってきましたが、出産後に知り合った一般社外の女性の多くが育児休職を取得できずに退職していることを知り、当社は女性にとって働きやすい職場であることを実感し、大変有難く思っています。

現在は毎日、日々成長する子供との生活を楽しみ、とても充実した毎日を送っています。

復帰後は、仕事と子育ての両立がうまくできるのか不安に思うこともありますが、職場の方に助けてもらいながら効率よく取り組んでいきたいと思っています。



図9 出産・育児の支援制度



## 製品の安全と品質

関西ティーイーケイ(株)は、製品安全と品質保証の管理体制を強化し、適切な情報提供に努め、安全で信頼性の高い製品を供給しています。

### 東レグループ CSR ガイドライン

1. 製品事故ゼロ件を達成します。
2. 東レグループ全体で製品安全と品質保証の管理体制を強化します。

## マネジメント

東レグループは「お客様第一の東レ」「品質の東レ」を具現化するために、製品安全と品質保証に関する方針のもと、二つを一体のものとして進める体制を整備しています。

### 製品安全管理の基本方針 1992年1月制定

1. 製品の安全性確保に必要な諸施策は優先して実施します。
2. 製品の販売に先立つ安全性評価検討を十分に行います。
3. 販売を開始した製品についても、一般・顧客情報に留意し、常に安全性に関する注意を怠りません。

### 東レグループ品質方針 2007年6月改定

全ての企業活動において、安全・環境と共に、お客様に提供する製品の品質を最優先し、「お客様第一」の姿勢で品質保証に取り組めます。

1. お客様の要望に応え満足いただける製品・サービスの提供に努めます。
2. 販売、生産、技術、研究等全部門は一貫して品質第一の思想に徹し、製品の品質と信頼性の向上に努めます。
3. 品質要求を達成するために、品質は設計と開発の段階で確立し、製造工程で作り込みます。
4. 品質保証体制を継続的に整備し、維持・向上に努めます。

### 【製品安全活動の推進体制】

関西ティーイーケイ(株)は、製品の安全に関する全社の重要問題を審議する常置機関として「製品安全委員会」を設け、毎年1回開催しています。委員長は社長、委員は製品安全管理責任者の上位監督責任者(製造担当役員)で構成しています。

また、東レエンジニアリング(株)が開催する製品安全専門委員会に、社長が選任する専門委員が開催の都度参加しています。

## 製品安全・品質保証への取り組み

### 【製品安全性審査への取り組み】

関西ティーイーケイ(株)では、製品安全管理責任者は製品をランク付けし、

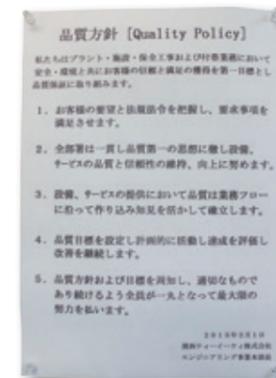
- ① 初めて社外で使用し、または試験販売もしくは頒布しようとする製品
- ② 上市しようとする製品
- ③ 事故(リコールを含む)および法令違反の発生その他製品の安全性に疑いが生じた製品
- ④ 用途が変更される製品
- ⑤ 製品安全性審査会の審査を過去に経ていない製品
- ⑥ 製品の性質に応じまたは開発投資の段階に応じて、安全性の検討が必要と考えられる製品

などについては、製品安全性審査会の開催を含む製品安全性審査を製造担当役員に要請するという取り組みを行っています。この審査会に合格して初めて製品の市場投入を認める仕組みとしています。

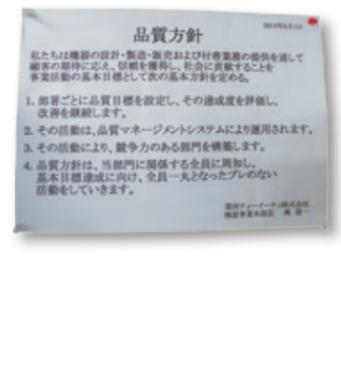
### 【品質保証活動推進への取り組み】

品質の規格標準としてISO9001が、製造業に導入されてから長い年月を経て今日に至っています。東レ・東レエンジニアリンググループの一員である関西ティーイーケイ(株)では、プラント建設と機器製作においては東レエンジニアリング(株)、また東レ製造設備の施工と保全においては東レ(株)のISO9001に準じた品質管理を行ってきました。しかしながら更なる品質管理の向上と、昨今のお客様の厳しいご要望に応じてご満足を得るために、新たな視点で当社独自にISO9001を導入することにいたしました。エンジニアリングと機器の両事業本内に品質保証室を発足させて、仕事の質の更なる向上を図るとともに、ISO9001の認証取得に機器事業本部が先行して(2015年5月取得予定)取り組んでいます。

エンジニアリング事業本部 品質方針 (2015年2月制定)



機器事業本部品質方針 (2014年6月制定)



### サプライチェーンにおけるCSRの推進

関西ティーイーケイ(株)は、調達・購買先、買付先、委託加工先、販売先、物流会社と協働し、CSR調達などサプライチェーン全体でのCSRへの取り組みを促進しています。

#### 東レグループ CSR ガイドライン

1. 重要な購買先、外注先に対してCSR調達を要請します。
2. 販売先からのすべてのCSR調達アンケートに対応します。
3. 東レグループ全体でCSR調達の体制を整備します。

### マネジメント

東レグループは、調達パートナーであるサプライヤーや物流パートナーとともに社会的責任を果たせるバリューチェーンを築き、お客様に環境や社会面に配慮した素材製品を供給するために「CSR調達ガイドライン」を制定しています。

#### CSR調達ガイドライン 2004年12月制定

1. CSR推進のための社内体制を確立し、誠実に取り組むこと
2. 企業倫理と法令遵守の強化・推進を図ること
3. 安全・防災・環境保全をあらゆる経営課題に優先すると共に、グリーン調達・購入の推進に配慮すること
4. 不測の事態への迅速な対応の確かな情報開示をするなど、リスクマネジメントを展開すること
5. ステークホルダーとの対話と協働を促進すること
6. 製品の安全性確保を製品供給にあたっての前提条件とすること
7. 人権を尊重して、あらゆる差別を排除し、職場環境の改善に努めること  
また強制労働・奴隷労働・児童労働・不当な低賃金労働をさせないこと
8. 機密情報の漏洩防止および知的財産の尊重をしていること

### 関西ティーイーケイ(株)のCSR調達・購買活動

関西ティーイーケイ(株)は、お客様にご満足いただける商品・サービスを提供するため、以下に定める調達基本方針に基づく

調達活動を行います。また、調達活動において、取引先とともに企業が果たすべき社会的責任を追求します。

#### 関西ティーイーケイ(株)の調達基本方針 2014年12月制定

1. 門戸開放方針  
私たちは当社の商品に使われる部品・材料・機器・工事等の調達に関して、国内外を問わず広く門戸開放します。
2. お取引先様との共存共栄  
私たちはお取引先様とは「共存共栄」を基本とし、相互発展を図ります。そのため、お取引先様とは緊密なコミュニケーションにより、強い信頼関係を築くように努めます。
3. グリーン調達の推進  
私たちは「環境に配慮したお取引先様から環境負荷の少ないものを調達する」ことを目指し、グリーン調達の推進を図ります。
4. 法令遵守と機密保持の徹底  
私たちは調達活動において関連する法令を遵守します。
5. 反社会勢力との関係遮断  
私たちは反社会勢力との関係の遮断を徹底します。
6. 品質の維持・向上  
私たちはお取引先様とともに当社商品・サービスの維持・向上に努めます。

#### 【グリーン調達の推進】

関西ティーイーケイ(株)は、東レグループの一員として東レ(株)の取り組みと協調し、CSR活動推進の一環として地球環境保全を経営の優先課題の一つと認識し、[地球環境貢献]と[製品の安全と品質(確保)]を目的として、お取引先様と一体となり、グリーン調達を推進しています。

#### ◆調達部における基本姿勢

これまでの「S(安全)」、「Q(品質)」、「C(価格)」、「D(納期)」に加え、「E(環境)」を調達基準の重要な要素と位置付け、下記を基本姿勢としてグリーン調達を推進しています。

1. 環境保全活動に積極的なお取引先様の製品を優先的に採用させていただきます。
2. 環境負荷低減とリサイクルを考慮した材料・部品・装置・役務等を優先的に採用させていただきます。

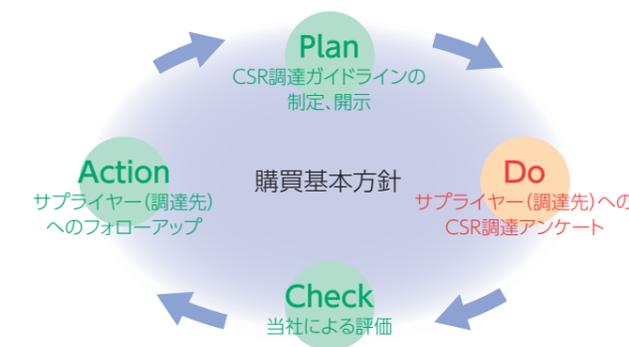
#### ◆お取引先様との一体活動

1. 環境保全活動  
環境保全活動の一環として、関西ティーイーケイ(株)の基準を満たすお取引先様を「グリーンサプライヤー」とし、そのお取引先様の製品等を優先的に採用させていただいています。また、お取引先様に、この「グリーンサプライヤー」になっていただけるよう、環境マネジメントシステム取得の推奨をはじめとする、さまざまな一体活動を推進しています。
2. 環境リスク物質調査  
環境リスク物質類の調査につきましては、要調査となった段階におきまして、対象となるお取引先様へ別途詳細を連絡させていただいています。

#### 【CSR調達の推進】

関西ティーイーケイ(株)は、CSR調達を継続して推進するにあたって、定期的にサプライヤーに対しCSRの取り組み状況を確認するため、「CSR調達アンケート」を配信しています。各社からの回答内容を回収・分析し、評価結果のフィードバックを行い、一部の取引先を訪問するなどして、各社のCSRの取り組み状況を確認し、パートナーシップのさらなる向上に向けた改善を依頼する形で、PDCAサイクルを構築しています。

なお、「CSR調達アンケート」内容については、当社のCSR調達ガイドラインに沿った各社のCSR推進状況を確認しており、2014年度は、新たに89社を実施しました。



#### 【サプライチェーン全体でのCSR調達の取り組み】

関西ティーイーケイ(株)は、取引先、外注先に対して、取引基本契約書に法令遵守、環境などのCSRに関する条文を記載し、契約の新規締結時や改訂時に切り替えを実施しています。また、販売先からの「CSR調達アンケート」への対応比率100%を目標に、取引先、外注先のみならず、販売先も含めたサプライチェーン全体でのCSR推進に取り組んでいます。

### コミュニケーション

東レグループは、社員、株主・投資家、取引先、消費者、地域社会、NPO、政府・行政、マスメディアなど各ステークホルダーとの対話と協働を促進しています。

#### 東レグループ CSR ガイドライン

1. 「ステークホルダーとの対話の促進に関する基本方針」にのっとり、ステークホルダーの満足度を向上させます。
2. 各ステークホルダーとの対話と協働を適時適切に経営行動へ反映させます。

### マネジメント

東レグループは、すべてのステークホルダーとの対話と協働の促進を重視した経営を進めており、それを実現するため「ステークホルダーとの対話の促進に関する基本方針」を掲げています。この基本方針のもと、企業活動のあらゆる場面でさまざまなステークホルダーとのコミュニケーション活動を展開しています。

#### ステークホルダーとの対話の促進に関する基本方針

2005年9月制定

1. 東レグループをあげて、すべてのステークホルダー、すなわち、お客様、株主・投資家、お取引先、社員、行政、地域社会、NPO、市民、国際社会、マスメディアなどとの対話と協働を促進します。
2. 東レグループ各社は、ステークホルダーとの対話と協働を通じて、皆様の満足度の向上に向けた行動改革に取り組むこととします。
3. 東レグループ社員は、各々の職場単位で、CSR活動推進の一環として、ステークホルダーの満足度向上のための課題を設定し、その解決に取り組めます。

### お取引先とのコミュニケーション

関西ティーイーケイ(株)では、いかなるお取引先にも平等に門戸を開放し、誠実、公正に対処することを心がけています。また、共に企業活動に取り組むパートナーとして、常日頃のコミュニケーションに加え、「CSR調達アンケート」などを通じて、相互理解を深めています。

#### Voice



管理・調達部門  
調達部長  
たかだ まさひこ  
高田 昌彦

調達部は、当社がお客様から受注した案件の要求(価格、機能、納期)を満足する設備・装置を納入するための機器・材料および工事など(比例費)の調達業務を担当しており、それぞれの調達先の選定と価格の決定責任を担っています。つまり、当部の使命は、「比例費の削減」です。

これらの調達業務を遂行するためには、調達品の商品知識はもちろん、契約に関する法律などの関連知識も不可欠なため、あらゆる機会を利用してその習得に努めています。調達部は、営業部署とともに、社外のお取引先様と商取引を行う企業の顔(窓口)として、CSR調達を基本に常にお取引先様とは、良好な関係を構築すべく「WIN-WIN」の結果を導き出すことを心がけています。

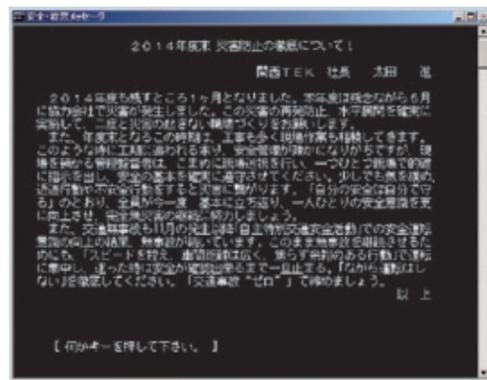
## 社員とのコミュニケーション

関西ティーイーケイ(株)では、パソコン起動時に社長メッセージ(下写真参照)を表示し、トップの意志を全社員に伝達するようにしています。社長メッセージは毎月更新しています。

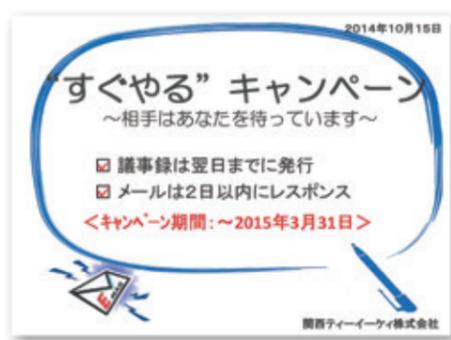
社長より迅速な業務遂行の指示を受け、「すぐやるキャンペーン」として全社展開し、「議事録は翌日までに発行」「メールは2日以内にレスポンス」の2項目のポスターを作製し、重点的にPRしています。

TPM活動において、社長が各職場に出向く機会を、「社長指導会」(P.7参照)として設けています。「社長指導会」では、その職場全員が集まり、社長の前で業務内容・業務上の問題点・解決への取り組み状況を説明し、社長から直接意見・指導を受けています。

パソコン起動時の社長メッセージ



社長指示のもとづくキャンペーン



**Voice**

滋賀事業所

こふじ たかし  
小藤 卓

私が所属している東レ滋賀ボート部は、1949年の創部より全日本選手権大会優勝はじめ、オリンピック・世界選手権の日本代表選手を数多く輩出するなど、好成績を収めてきました。また、2007年から毎年行われる瀬田川水辺協議会主催の清掃活動「瀬田川クリーン作戦」に、地域の方々とともに参加しています。このような地元の方々のおかげで日々練習に取り組んでいることを忘れず、地域とともに発展する東レグループの一員として自然環境について考え、こうした社会貢献活動に積極的に参加していきたいと思っています。



## 社会貢献活動

東レグループは、よき企業市民として、地域づくりや未来世代育成に役立つ活動をはじめとした社会貢献活動を推進しています。

### 東レグループ CSR ガイドライン

1. CSR活動とのつながりを意識し、「東レグループ社会貢献方針」にのっとり、教育・環境・地域・社員を重点領域として、自主的かつ継続的に社会貢献活動を行います。
2. 東レグループの強みや地域の特性を活かし、質の高い教育支援に取り組みます。

## マネジメント

東レグループは、社会の一員として責任を果たし、自主的かつ継続的に明確な方針をもって社会貢献活動に取り組むことを目的に、2005年に「東レグループ社会貢献方針」を策定しました。この方針は、企業理念「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」に基づいて策定されたものです。

### 東レグループ社会貢献方針 2005年5月制定

1. 東レグループは、企業理念「新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」に基づき、地域社会・国際社会のなかで、よき企業市民として、それら社会の持続的発展に貢献するとともに、社員の社会貢献活動を継続的に支援します。
2. 東レグループは、科学技術の振興を柱として、地域の社会福祉向上、伝統文化を通じた国際交流支援、スポーツ振興などのプログラムを独自に推進していきます。
3. 東レグループは、ボランティア活動など社員の社会参加を促進するため、会社表彰制度などで風土の醸成を図り、地域に根差した支援活動を行います。
4. 東レグループは、マーケティング活動や広報・宣伝活動を行う際も、その実施内容について、常に社会貢献の観点から見直し、実行します。
5. 東レグループは、連結経常利益の1%程度を目安に、社会貢献活動に資金などを拠出していきます。

## スポーツ振興を通じた地域社会への貢献など

### 東レ滋賀ボート部による地元中学生の指導

東レ滋賀ボート部は、日本有数の実業団チームです。関西ティーイーケイ(株)社員にもボート部OBがあり、現役引退後に、地元からの要請に応え中学生の強化・指導を任されている者もいます。2014年7月19日～20日に岐阜県で開催された「第34回全日本中学選手権競漕大会」では、地元中学校が男女とも総合優勝を果たし、喜びを分かち合いました。



地元中学生を川岸から指導する当社ボート部OB社員

### 東レ愛媛サッカー部による少年サッカー指導：愛媛北伊予ジュニアフットボールクラブ

北伊予ジュニアフットボールクラブは1993年4月に地域サッカー復興のために発足後22年経過し、現在は約40人の子供達が在団しています。関西ティーイーケイ(株)社員も含め選手・チームスタッフ全てが地元の人であり、少年サッカーの指導を通じてコミュニケーションを図り、「サッカーが好き・サッカーが楽しい・サッカーが上手になりたい」と思ってもらえるよう成長をサポートしています。今後も、子供達とサッカーを楽しみながら色々なことを学び経験し地域貢献していきます。



### 東レ滋賀柔道部による少年柔道教室

東レ滋賀柔道部では、地域貢献活動の一環として、1974年から約40年間にわたり小学生を対象にした柔道教室を開催しています。関西ティーイーケイ(株)社員も指導員の一員として、柔道を通じて健全な青少年の育成に努めています。

その柔道教室の活動の一つとして、年に一度、近隣の柔道団体を招いて東レ交流会を実施しており、今回で7回目となり、愛知県の東レ岡崎工場柔道教室をはじめ、兵庫県、奈良県、京都府など県外からも多くの方に参加していただいています。(11団体、総勢168名の小学生)

今後も、この交流会をはじめ地域貢献活動に努めていきたいと思っています。



第7回東レ少年柔道教室交流会 2014年11月22日(土) 於：滋賀県立武道館

## 地域の消防団活動を通じた社会貢献

関西ティーイーケイ(株)の社員の中には、地元の消防団に加入し有事の際にいつでも活動できるように、機器の点検、火災を想定した訓練、地域の皆様への啓発活動、各自治会への消火活動指導などを実施している者がいます。最近では、火災消火活動以外にも、台風接近に伴う水防団としても有事の際に最前線で活動しています。今後も、地域の安心・安全を守り、合わせて、地域住民の防災意識の向上に努めていきます。



環境

東レグループは、「環境10原則」(P.3参照)に則り「安全・防災・環境保全」をあらゆる経営課題に優先し、原材料の調達から製品の製造、供給、廃棄に至るまでのすべてのプロセスにおいて、社会と社員の安全と健康を守り、環境保護に努めています。

安全では「ゼロ災」達成、防災では「火災・爆発事故ゼロ」達成、および環境では「第4次環境中期計画(2011～2015年度)」と「環境事故ゼロ」達成に向けて、グループ全体で取り組んでいます。

安全・防災・環境保全

関西ティーイーケイ(株)は、エンジニアリング、機器製作、メンテナンス分野における卓越した技術・技能を駆使し、お客様の日頃の課題や思いを具現化し、基本計画から保全まで一貫した体制で応えています。

業務遂行に当り、安全では「ゼロ災継続」、防災では「火災・爆発事故ゼロ」、そして環境では東レグループ「第4次環境中期計画」を推進し、「環境事故ゼロ」の達成を目指して全社で取り組んでいます。

東レグループ CSR ガイドライン

1. 「安全の基本」を明確にし、徹底して守り、「安全考動」を実践して災害防止に努めます。
2. 東レグループ「安全・衛生・防災・環境活動方針」に基づいた一元的な取り組みを推進します。
3. 東レグループ全体で「第4次環境中期計画」(目標達成年度2015年度)を推進し、目標を達成します。

安全・衛生・防災・環境マネジメント

東レグループでは、グローバルな一元管理を基本方針としており、前年の活動結果を省みて、毎年「安全・衛生・防災・環境活動方針」を定め取り組んでいます。

関西ティーイーケイ(株)の安全・衛生・防災・環境保全の推進体制は、中央・人権安全衛生委員会を設置し、全社の意思決定機関として、方針・施策を審議するとともに、各事業場(所)の活動結果をフォローしています。



連続無災害記録表示

労働安全・防災活動

東レグループの企業行動指針の一番目には「安全・衛生・防災・環境保全を最優先課題として、社会と社員の安全と健康を守り環境保全を積極的に推進します」と掲げ、全社員が安全最優先を認識し、業務に取り組んでいます。

関西ティーイーケイ(株)は、「一人ひとりかけがえない命を守る」との人間尊重の精神にのっとり、経営者層、管理者層および一般層が一体となって、ゼロ災を目指して地道な安全活動に取り組んでいます。

毎年作成する安全スローガンについて、2015年も2014年と同じく個人が常に安全について考えながら行動していくことを目標に「安全考動」というキーワードを掲げて、全社で共有しています。

2015年 安全スローガン  
トータル ゼロ災必達! 一人ひとりが“安全考動”

関西ティーイーケイ(株)は、毎年創立記念日(9月6日)に合わせ、社長・各本部・部門長および各職場の代表と協力会社の代表が出席して、全社安全大会を開催しています。活動方針や重点活動項目を周知することで、活動のベクトル合わせや安全意識の高揚を図っています。

そして、各本部・部門長のリーダーシップのもと、社員全員が一丸となり、ゼロ災害達成に向け安全活動に取り組んでいます。

さらに、各事業場(所)でも、安全大会や安全衛生委員会(毎月)を開催し、活動方針に基づく重点活動項目や日常活動における方向性などの周知徹底を図っています。



安全大会  
プレゼンテーション会場

安全大会  
指差し唱和



【関西ティーイーケイ(株)の安全実績】

労働災害統計を取りはじめた1985年から、発生した労働災害情報はすべて全社で共有し、貴重な教訓として類似災害防止対策に役立ててきました。その結果、1988年の3件をピークに激減しており、2009年以降は無災害を継続しています。

世の中の安全指標となる度数率、強度率は、2013年度で見ると、度数率は0であり、建設業(総合工事業)の1.25と比較すると極めて良好な成績と言えます。また、強度率においても0で、同じく建設業の0.23と比較しても良好な結果が出ています。今後もさらなる安全レベルの向上を図り、ゼロ災を目指して安全活動を推進していきます。

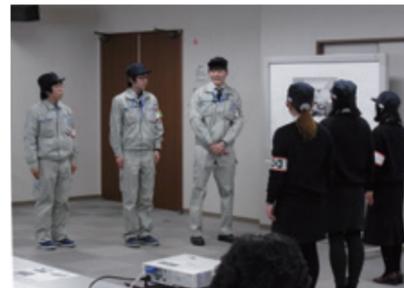
【安全教育の充実】

社内外の専門教育や階層別教育研修等に積極的に参加し、能力向上に努めています。また、雇入れ時の新入・転入者教育は必ず実施するとともに、災害発生の原因となる作業の危険リスクを減らす「リスクアセスメント教育」なども実施しています。

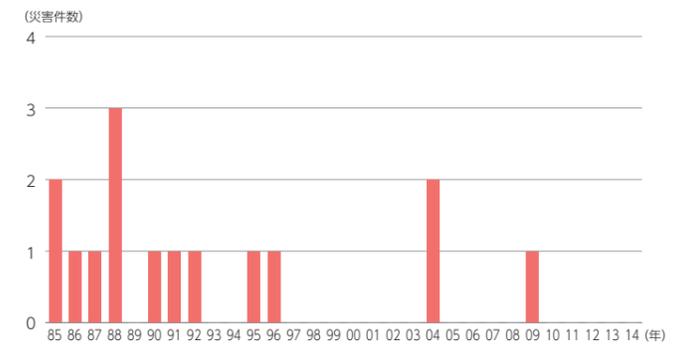


疑似体験  
(扶まれ疑似体験装置)

交通危険予知訓練



災害発生件数推移



ロール等にも積極的に参加いただくなど、安全活動全般に亘り参画していただいています。

【防災訓練による事故への備え】

各事業場(所)は、独自の防災・避難訓練をはじめ、東レ(株)の各工場内に拠点を置いている関係で、東レ(株)、東レエンジニアリング(株)の防災訓練にも積極的に参加し、緊急事態への対応力の向上に努めています。



避難訓練



Voice

滋賀共栄会会長  
岡本電気株式会社 代表取締役社長  
おかもと しげき  
岡本 茂樹 氏

関西ティーイーケイ(株)滋賀共栄会は、東レ滋賀事業場内で事業活動を行う協力会社で、関西ティーイーケイ(株)の指導のもとで安全確保、工場の生産性や技術・技能の向上、工期の確保ならびに経営の合理化・体質強化を図り、関西ティーイーケイ(株)と共に発展し、あわせて会員相互の親睦を図ることを目的に作られた会です。

当会は安全推進委員会、交通安全委員会を中心とする安全活動を主体とする組織からなり、毎月開催される「安全衛生協議会」を通じてお客様と共に数々の安全活動を計画、実施しています。

また、会員各社も当会の活動に参画するとともに各社独自の安全活動や業務に直結した資格取得などによりさらなる技術力向上に努めています。今後もゼロ災を目指して各社が一丸となって安全活動を推進していきますので、引き続きご指導のほど、よろしく申し上げます。

【協力会社と一体となった安全管理】

関西ティーイーケイ(株)は、多くの協力会社の協力を得て事業活動を行っています。これら協力会社の社員の方々の安全を守ることも当社の使命と考え、労働災害防止に向けた種々の活動を一体となって推進しています。

例えば、月1回開催する人権安全衛生委員会にも、協力会社の代表者にオブザーバー参加していただくとともに、各社代表が出席する安全衛生協議会や連絡会などを通じ、活動方針や計画施策などをはじめとした日常活動の周知徹底を図っています。

また、定期的で開催している安全衛生教育や現場の安全パト

## 地球温暖化対策への取り組み

地球温暖化防止対策推進は、環境負荷低減を図るとともに、持続可能な低炭素社会の実現に向け、このような日常活動にも環境活動を進めるうえで、電力消費や燃料消費量を削減し、省エネ活動にも寄与しています。

毎年、「環境マネジメントプログラム」を作成し、環境目標・目的を明確化して計画的に推進しています。

## 2013年度の省エネ活動と2014年度の目標

こうした省エネ活動を進める中で、2013年度の省エネ活動を進めるにあたり、2010年度を基準に日常活動として、不要時のパソコンの電源OFFや昼休み時間の消灯、空調機の温度管理、時間外業務の削減など管理強化を図り、目標達成に向け活動を進めました。

2013年度は、電力消費量450MWh/年以下、ガソリン消費量17Mℓ/年以下に目標を設定して活動に取り組みましたが、実績は電力消費量304MWh/年、ガソリン消費量19Mℓ/年となりました。電力消費量は2010年度のピーク時(463MWh/年)に比べ34%削減でき目標を達成しましたが、ガソリン消費量は営業活動を活発化した中で、エコドライブや公共交通機関の利用等の推進に努めましたが、残念ながら未達でした。

こうした実績を踏まえ、2014年度省エネ目標は、電力消費量400MWh/年以下、ガソリン使用量19Mℓ/年以下に設定し推進しています。

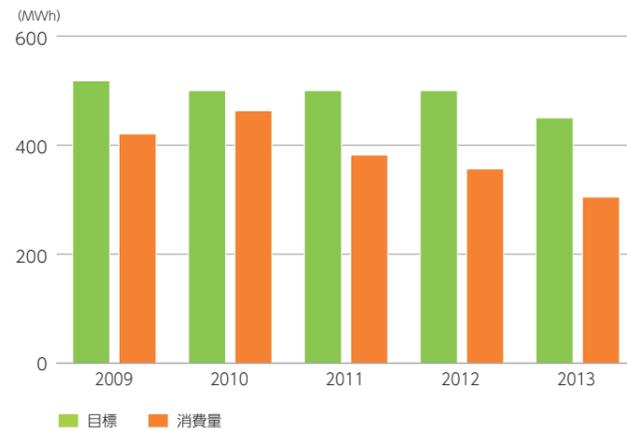


省エネ表示(会議室)

省エネ表示



## 電力消費量推移

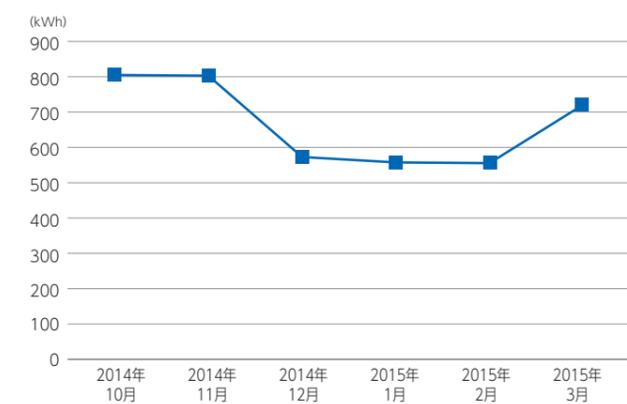


全社員に省エネを周知徹底



省エネ活動を進める中で、毎年5月1日から10月31日まではクールビズ、12月1日から翌年3月31日まではウォームビズを展開するとともに、2014年9月から本社の屋上に太陽光発電システム(発電出力10kW)を導入し、自然エネルギーの利用を進めています。本社ビル1~2階の階段の踊り場には発電状況が判るモニターを設置し、お客様はもちろん、当社社員にも太陽光発電による地球温暖化防止に取り組んでいる姿勢を示しています。

## 本社屋上太陽光パネル 発電量



屋上太陽光パネル

太陽光モニター



## 廃棄物削減への取り組み

環境目標として、①総廃棄物量の削減、②再資源化の推進、③紙類の削減を掲げ、2013年度の数値目標を設定し目標必達に取り組みました。

関西ティーイーケイ(株)の事業形態から排出される廃棄物が固定化され、主たるものは、紙類、金属、プラスチック類となっていますが、これらの廃棄物は受注量とともに変化します。その現象が2010年度に現れ、目標に対して大きく増加しました。

## 【2013年度の実績】

### 1. 総廃棄量と再資源化率

2013年度の総廃棄物量は、削減計画、購入品の梱包資材返却、TPM活動の推進、分別の強化、実績値の見える化などを削減目標項目としてPRし、活動をスタートさせました。結果は、目標の28.5t/年に対して実績25.4t/年となり目標を達成しました。

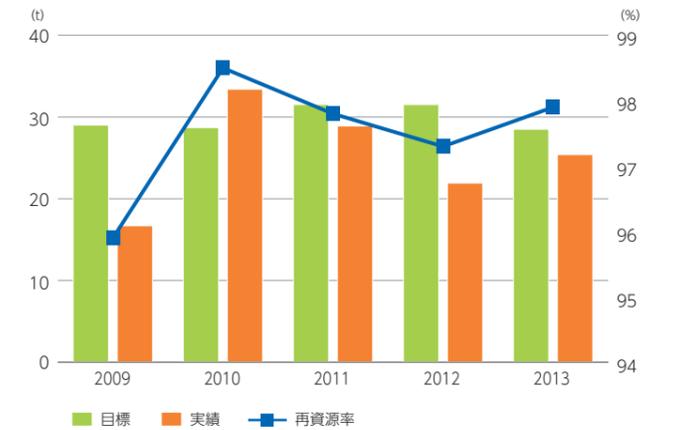
また、再資源化率は、茶かす、吸殻の水きり・乾燥廃棄の徹底、ゴミ分別の再徹底を進めるなど、目標とした96.0%以上に対し実績97.9%と目標を達成しました。

さらに、廃棄物のゼロエミッション化を図るべく「単純処分廃棄物が総廃棄物発生量の1%以下」と定義し、目標達成に向けて取り組んでいます。

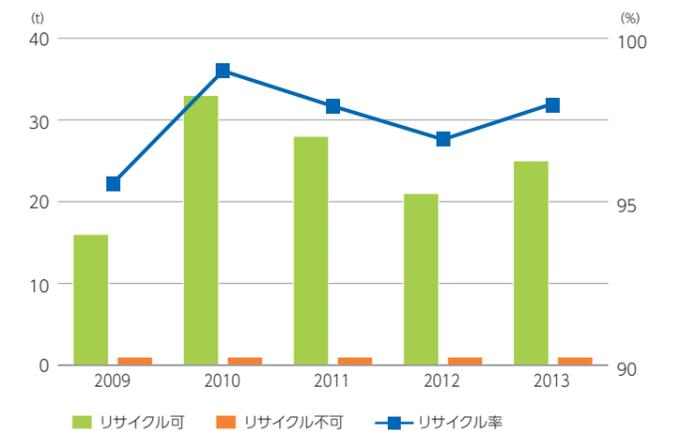
## 2. 紙の削減

業務形態から紙類の削減には困難が伴いますが、両面コピーの推進、裏紙の再利用等を徹底することにより、目標14.5t/年に対して10.5t/年と目標を達成しました。

## 廃棄物総排出量推移



## 再資源化率内訳推移



## 環境リスクマネジメント

### 【環境・防災についての法令遵守状況および事故など】

関西ティーイーケイ(株)は創立以来、環境異常件数“ゼロ”を目標に日々事業活動に取り組んできました。現時点では環境異常は発生していませんが、今後も法令遵守を最優先に、社会と社員の安全・健康・資源を守り、地球環境保全に努めていきます。

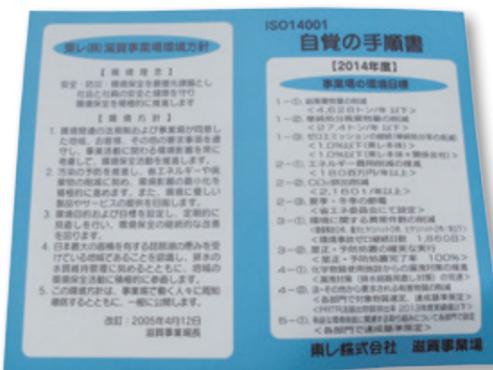
地域社会との共生

東レ(株)、東レエンジニアリング(株)および関西ティーイーケイ(株)それぞれの滋賀事業場は日本最大の湖(琵琶湖)の近郊で事業を展開していることから、環境保全・改善活動についても東レグループが一体となって取り組んでいます。

東レ(株)、東レエンジニアリング(株)は、2000年11月15日に大津市と「環境保全協定」(右記参照)(第一次は11社が締結)を締結しています。関西ティーイーケイ(株)は、2001年2月26日(第二次締結日)に同協定を締結し、毎年大津市長に環境保全活動の推進状況などの報告書を提出しています。

また、当社はISO14001は取得していませんが、東レグループの一員として、ISO14001同様の「環境保全方針」(右記参照)を定め、同方針を実現するために、環境目的および目標を設定し、かつ全社員が事業者・市民としての責任と役割を自覚し、共通の目標を達成するために、自覚の手順書(下写真参照)を役員・社員全員に配布し、各自の環境目標を記載し、常時携帯しています。

環境目標が記載されている「ISO14001自覚の手順書」



- 環境保全方針** 2001年2月制定
1. 大津市環境基本計画に基づき、共生、循環、健康、快適、協働の基本目標を達成するべく、環境保全活動方針・計画を明確にし、環境の維持・保全に努めます。
  2. 環境関連の法規制を遵守し、自主的に保全・改善活動に取り組みます。
  3. 水質汚濁物質の流出防止及び大気汚染物質の排出防止を徹底します。
  4. 廃棄物の削減、リサイクル化の促進、省エネルギーへの取り組み等環境負荷の低減に努力します。
  5. 臭気・振動・騒音等を防止し、地域環境を守ります。

参考：環境保全協定について (大津市ホームページから引用)

環境保全協定は、大津市と事業者が、大津市環境基本計画に基づく理想の環境像の実現を目指して、「大津市生活環境の保全と増進に関する条例」の規定に基づき締結するものです。

具体的には、協定締結事業者は、ISO14001の認証の取得、又は市の定める「環境保全協定に定める環境保全活動及び報告書作成に関する手引き」に従い環境管理体制を整備し、必要に応じて市と協議して環境保全目標等を設定するなどにより、継続的な取組を推進するものです。また、これらの実施状況を市に報告するものとしています。

更には、当該地域の一員として地域住民等と一緒に地域の環境保全に取り組むとともに、他の協定締結事業者やその他の事業者に対し、環境保全活動がより効果的に実施されるよう、研修等の協力を行う協力体制についても定めています。

一方、市は事業者から提出された環境保全活動に関する報告書を広く市民に公表することにより、事業者の積極的な環境保全に関する活動状況を周知するとともに、事業者による環境保全活動が促進されるよう、事業者に対し環境保全に関する情報の提供、研修会の開催、情報交換の場の提供などに努めます。更には、協定締結事業者が実施する積極的な環境保全の取り組みについての広報に努めることにより、これらの活動が広く理解され、多くの事業所で展開されるよう努めるものです。

付け、当社がより良い企業に発展し、公的な存在として社会に貢献していく一助となれば幸いです。

内容的にはまだまだ貧弱であり、皆様方からの厳しいご意見を頂戴しながら今後第2版、第3版と版を重ねる毎に、CSRレポートとして、より充実したものにしていきたいと考えています。

<編集事務局> 2015年4月  
 坪田 博 (つばた ひろし) 企画管理部  
 上野 信夫 (うえの のぶお) 安全管理部  
 小林 香 (こばやし かおり) TPM推進室

第三者意見



NPO法人 大阪環境カウンセラー協会  
 副理事長  
 地球環境関西フォーラム  
 戦略部会・循環社会部会委員  
 大学講師等  
 (近畿大学、大阪産業大学、鳥取環境大学等)  
 CEAR登録 環境主任審査員

よしむら たかし  
**吉村 孝史** 氏

CSRとは、Corporate(企業の) Social(社会的) Responsibility(責任)であり、企業は私的なものではなく、公的な存在であることを認識し、社会貢献に努めることが求められています。

それでは、CSRレポートを発行するとすると、わざわざ社会貢献を行って、それを報告するということになるのでしょうか。決してそうではありません。レポートを発行するために、わざわざ社会貢献するというのは本末転倒です。日常活動がCSRにふさわしいものになっているかが重要です。その意味において、このレポートに書かれていることと実体がどうなのかがポイントなのです。

まず、法令遵守、そして企業倫理、安全、防災、人権、人財、リスク、地球環境問題などへの取り組みが社会貢献のベースなのです。そして、持続的発展という、考え方が求められるということです。企業は一時的にどれほど発展しても、持続していかねば意味がありません。持続性がないということは企業が成り立っていかないことを意味します。どのように発展と持続性を両立させるかが重要です。

このレポートのトップコミットメントにおいて、社長は、「持続的発展を目指す」ことを明確にされていますし、CSRが追加された活動ではないことも触れられています。

いろいろ準備できてから、このCSRレポートが発行されたというより、トップの強いリーダーシップでこのレポートが誕生しました。そして、そ

の発行に向かって、各員が、現にやっていることをまとめて完成させたという熱意が紙面に感じられ評価できます。

法令遵守、企業倫理、安全、防災、人権、人財、リスク、地球環境問題など分野毎についての取り組みについては、単に取り組んでいますというだけでなく、実績を数字で示すことが効果的です。例えば、障がい者雇用率2%達成など。また、法令違反はこの期間全く問題がなかったらその旨を記すことです。

社内だけでなく、利害関係者(ステークホルダー)とのコミュニケーションについてですが、取引先へのCSR調達や地元自治体との環境保全協定は評価できます。更に、それ以外の利害関係者とのコミュニケーションの実態はどうなっているか。例えば、騒音など地域住民からの苦情はどうか。無ければ無かったとはっきり記すことが必要です。

温暖化対策について、電力消費量は、経年推移が計画と実績をグラフで示され、毎年計画を達成し減少傾向にあり、評価できます。合わせて、会議室やスイッチの横に、省エネ表示をしている写真や屋上の太陽光パネルと表示モニターの写真は効果的です。廃棄物の排出量と再資源化率の推移が示されていますが、たとえば廃棄物の分別の事例を示す写真があれば、説得力が出ます。

地球環境問題は、大きく分けて ①低炭素社会を目指す温暖化対策 ②循環型社会を目指す資源循環対策 ③自然共生社会を目指す生物多様性対策の3つの分野があります。①は省エネで ②は廃棄物削減で取り上げられていますが ③の自然共生の分野が見当たりません。今後の課題として、琵琶湖の近くにいるのですから取り組みを検討する必要があります。

最後に述べることは、CSRレポートは会社案内とは視点が違うということです。事業の概要のところでは、機能膜を利用した水処理装置や新エネルギー関連の地球環境関連事業をもっと強調することです。そういう事業構造になってこそ、トップコミットメントでいう「新しい価値の創造を通じて、社会に貢献する」ことにつながっていくのです。

第三者意見を受けて

吉村様には、当社がトップ・マネジメントの強い意思で、このCSRレポートを初めて制作するに当たって、発行までに種々のご指導をいただきました。またご多忙の中、第三者意見の執筆もお願いし、貴重なご意見、ご指摘をいただき、ありがとうございました。

このレポートをまとめてみて、今まで社内には散在していた資料・データ等が一元的に集約できたことは、大きな成果であったと認識しています。ただ、CSRレポートといえながら、吉村様のご指摘のとおり、当社の世間的な知名度の低さもあって、どういう会社かということを紹介するのにページを割き、会社案内的なレポートとなった感が否めません。反省事項として、次回に活かしていきます。

当社は、東レ・東レエンジニアリンググループの一員として、両社に準じたCSRに関する社内体制などは相応に対応・推進していますが、その結果として問題があったのかなかったのか、実績データの未整備、表現方法の未熟さなど、今後に多くの課題を残すレポートとなりました。

また、吉村様の第三者意見のとおり、「企業は私的なものではなく、公的なものであることを認識し、社会貢献に努める」こと、まさにCSRですが、このレポートをまとめてみて当社は、「社会貢献活動」の面で、まだまだという認識でいます。

今後も、皆様方のご意見を尊重しつつ、法令遵守、企業倫理、安全、防災、人権、人財、リスク、地球環境問題に配慮し、事業活動を進めていきます。今後とも、ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。



関西ティーイーケイ株式会社  
 常務取締役  
 管理・調達部門長  
 法務審査室長

ながの くにお  
**長野 邦夫**



**TORAY**

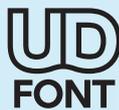
**関西ディーイーケイ株式会社**

〒520-0832 滋賀県大津市粟津町1番24号  
TEL:077-534-0956 FAX:077-534-4693

ホームページでの情報開示  
<http://www.kansai-tek.co.jp/>

内容に関するお問い合わせ先  
企画管理部 TEL:077-534-0956 FAX:077-534-4693  
発行:2015年4月 (次回発行予定:2016年4月)

本レポートは、以下の配慮をしています。



ユニバーサルデザイン (UD) の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



このレポートは、FSC® (森林管理協議会) の規程に従って環境に配慮し、適切に管理された森林から切り出された木を原料とした紙を使用しています。またインクは揮発性有機化合物の発生が少ない植物油インキを使用し、アルカリ性現像液やイソプロピルアルコールを含む湿し水が不要な 東レ水なし平版® で印刷しています。